

元気!長生き!

太陽生命



News Release



2024年5月15日

各位

太陽生命保険株式会社
代表取締役社長 副島 直樹

2024年3月期決算のお知らせ

T&D保険グループの、太陽生命保険株式会社（社長 副島直樹）の2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）決算をお知らせいたします。

[目次]

1. 主要業績	・・・	1	頁
2. 保障機能別保有契約高	・・・	4	頁
3. 契約者配当金例示	・・・	6	頁
4. 資産運用の実績（一般勘定）	・・・	9	頁
5. 貸借対照表	・・・	23	頁
6. 損益計算書	・・・	38	頁
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	・・・	40	頁
8. 株主資本等変動計算書	・・・	44	頁
9. 保険業法に基づく債権の状況	・・・	46	頁
10. ソルベンシー・マージン比率	・・・	48	頁
11. 特別勘定の状況	・・・	48	頁
12. 保険会社及びその子会社等の状況	・・・	51	頁

※なお、72頁以降に、「2024年3月期 決算補足資料」を添付しております。

※本資料において、百分率は、表示未満四捨五入しております。この端数処理により、各百分率の合計が100%にならないことがあります。

以上

さあ、保険の新次元へ。

T&D 保険グループ

太陽生命保険株式会社 広報部

東京都中央区日本橋2-7-1 TEL : 03-3272-6406

1. 主要業績

(1) 年換算保険料

① 保有契約

(単位：百万円、%)

区分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金額	前年度末比	金額	前年度末比
個人保険	303,814	99.4	299,662	98.6
個人年金保険	268,939	98.0	264,524	98.4
合計	572,754	98.7	564,187	98.5
うち医療保障・生前給付保障等	133,607	104.6	136,946	102.5

② 新契約

(単位：百万円、%)

区分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)		当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	
	金額	前年度比	金額	前年度比
個人保険	32,935	96.2	31,518	95.7
個人年金保険	381	—	915	240.1
合計	33,316	97.5	32,433	97.3
うち医療保障・生前給付保障等	20,703	105.0	19,435	93.9

(注) 1. 新契約には、転換による純増加を含んでいます。

2. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。

3. 「うち医療保障・生前給付保障等」欄には、医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付、介護給付等)、保険料払込免除給付(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

(2) 保有契約高及び新契約高

① 保有契約高

(単位：千件、億円、%)

区分	前事業年度末 (2023年3月31日)				当事業年度末 (2024年3月31日)			
	件数		金額		件数		金額	
		前年度末比		前年度末比		前年度末比		前年度末比
個人保険	7,018	102.4	101,287	89.2	6,983	99.5	88,608	87.5
個人年金保険	877	91.4	28,632	90.1	815	92.9	26,010	90.8
小計	7,895	101.0	129,919	89.4	7,799	98.8	114,618	88.2
団体保険	—	—	95,968	100.4	—	—	97,654	101.8
団体年金保険	—	—	9,295	107.9	—	—	10,888	117.1

- (注) 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したものです。
 2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。
 3. 2008年10月より発売した「保険組曲Best」は、個々の保障を主契約として組み合わせた商品であり、件数についてはそれぞれの保障を1件として記載しています。

② 新契約高

(単位：千件、億円、%)

区分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)					
	件数		金額		新契約	転換による純増加
		前年度比		前年度比		
個人保険	1,342	117.5	2,322	128.3	4,843	△2,521
個人年金保険	1	123.7	49	—	79	△30
小計	1,343	117.5	2,371	132.0	4,923	△2,551
団体保険	—	—	1	1.1	1	—
団体年金保険	—	—	0	43.6	0	—

(単位：千件、億円、%)

区分	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)					
	件数		金額		新契約	転換による純増加
		前年度比		前年度比		
個人保険	1,219	90.8	2,240	96.5	4,660	△2,420
個人年金保険	5	383.0	169	344.3	179	△10
小計	1,224	91.1	2,409	101.6	4,840	△2,431
団体保険	—	—	108	6,612.0	108	—
団体年金保険	—	—	0	1,660.0	0	—

- (注) 1. 件数は、新契約に転換後契約を加えた数値です。
 2. 個人年金保険の新契約・転換による純増加の金額は、年金支払開始時における年金原資です。
 3. 団体年金保険の新契約の金額は、第1回収入保険料です。
 4. 2008年10月より発売した「保険組曲Best」は、個々の保障を主契約として組み合わせた商品であり、件数についてはそれぞれの保障を1件として記載しています。

(3) 解約失効率 (対年度始)

(単位：%)

区分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)		当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	
	金額	前年度比	金額	前年度比
個人保険	6.38		8.69	
個人年金保険	1.64		1.44	
小計	5.34		7.09	
団体保険	0.00		0.00	

(4) 解約失効高

(単位：千件、億円、%)

区分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)				当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)			
	件数	前年度比	金額	前年度比	件数	前年度比	金額	前年度比
個人保険	567	117.9	7,238	82.8	615	108.5	8,797	121.5
個人年金保険	12	113.6	520	127.4	10	84.2	410	78.9
小計	579	117.8	7,759	84.7	626	108.0	9,208	118.7
団体保険	—	—	4	52.2	—	—	0	7.3

(注) 2008年10月より発売した「保険組曲Best」は、個々の保障を主契約として組み合わせた商品であり、件数についてはそれぞれの保障を1件として記載しています。

(5) 主要収支項目

(単位：百万円、%)

区分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)		当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	
	金額	前年度比	金額	前年度比
保険料等収入	643,308	107.6	702,821	109.3
資産運用収益	214,741	123.1	233,094	108.5
保険金等支払金	726,570	52.6	692,392	95.3
資産運用費用	71,514	193.5	124,570	174.2
経常利益	48,144	—	55,314	114.9
特別利益	1,271	499.3	9,805	771.3
特別損失	4,026	102.7	3,871	96.1
契約者配当準備金繰入額	10,847	86.3	13,606	125.4
当期純利益	26,832	—	38,983	145.3

(6) 総資産

(単位：百万円、%)

区分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金額	前年度末比	金額	前年度末比
総資産	7,354,754	95.6	7,307,852	99.4
(増加資産)	△338,517	—	△46,901	—

2. 保障機能別保有契約高

① 前事業年度末

(単位：千件、億円)

項目		個人保険		個人年金保険		団体保険		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
死亡保障	普通死亡	1,548	79,631	—	—	13,769	95,944	15,318	175,576
	災害死亡	330	3,480	—	—	1,073	4,192	1,403	7,673
	その他の条件付死亡	1	13	—	—	18	81	20	95
生存保障		288	2,243	877	28,632	131	23	1,297	30,899
入院保障	災害入院	1,036	50	15	0	632	1	1,683	52
	疾病入院	1,035	50	15	0	3	—	1,054	50
	その他の条件付入院	636	32	0	0	21	0	658	32
障害保障		341	—	—	—	847	—	1,188	—
手術保障		1,493	—	15	—	1	—	1,510	—

(単位：千件、億円)

項目	団体年金保険		財形保険・財形年金保険		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生存保障	8,140	9,295	1	44	8,141	9,339

(単位：千件、百万円)

項目	医療保障保険	
	件数	金額
入院保障	105	118

(単位：千件、百万円)

項目	就業不能保障保険	
	件数	金額
就業不能保障	6	97

- (注) 1. 団体保険、団体年金保険、財形保険・財形年金保険、医療保障保険（団体型）及び就業不能保障保険の件数は被保険者数を表しています。
2. 「生存保障」欄の金額は、個人年金保険、団体保険（年金特約）及び財形年金保険（財形年金積立保険を除く）については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したもの、団体年金保険、財形保険及び財形年金積立保険については責任準備金を表しています。
3. 「入院保障」欄の金額は、入院給付金日額を表しています。
4. 医療保障保険の「入院保障」欄には、疾病入院に関わる数値を記載しています。
5. 就業不能保障保険の金額は就業不能保障額（月額）を表しています。

② 当事業年度末

(単位：千件、億円)

項目		個人保険		個人年金保険		団体保険		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
死亡保障	普通死亡	1,430	67,174	—	—	13,699	97,633	15,129	164,807
	災害死亡	294	3,454	—	—	1,053	4,038	1,348	7,492
	その他の条件付死亡	1	12	—	—	18	83	20	96
生存保障		233	1,880	815	26,010	106	20	1,155	27,911
入院保障	災害入院	965	46	13	0	618	1	1,597	48
	疾病入院	965	46	13	0	6	—	986	46
	その他の条件付入院	528	27	0	0	23	0	552	27
障害保障		312	—	—	—	828	—	1,140	—
手術保障		1,495	—	13	—	2	—	1,512	—

(単位：千件、億円)

項目	団体年金保険		財形保険・財形年金保険		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生存保障	8,092	10,888	1	44	8,093	10,932

(単位：千件、百万円)

項目	医療保障保険	
	件数	金額
入院保障	101	109

(単位：千件、百万円)

項目	就業不能保障保険	
	件数	金額
就業不能保障	6	105

- (注) 1. 団体保険、団体年金保険、財形保険・財形年金保険、医療保障保険（団体型）及び就業不能保障保険の件数は被保険者数を表しています。
2. 「生存保障」欄の金額は、個人年金保険、団体保険（年金特約）及び財形年金保険（財形年金積立保険を除く）については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したもの、団体年金保険、財形保険及び財形年金積立保険については責任準備金を表しています。
3. 「入院保障」欄の金額は、入院給付金日額を表しています。
4. 医療保障保険の「入院保障」欄には、疾病入院に関わる数値を記載しています。
5. 就業不能保障保険の金額は就業不能保障額（月額）を表しています。

3. 契約者配当金例示

2024年3月期決算に基づく配当率は次のとおりです。

○個人保険・個人年金保険

毎年お支払いする通常の配当金

費差配当・・・前年度より据置としています。

死差配当・・・前年度より据置としています。

利差配当・・・前年度より据置としています。

予定利率2%以下	1.65%－予定利率
予定利率2%超、4%以下	1.45%－予定利率
予定利率4%超	1.25%－予定利率

消滅時などにお支払いする特別配当金

前年度に引き続き実施しております。

疾病健康配当・・・前年度より据置としています。

10年以上経過して消滅かつ給付金支払のない疾病保障特約等について
入院給付金日額1,000円につき2,200円

○団体年金保険

利差配当・・・前年度より据置としています。

拠出型企業年金保険	1.30%－予定利率
確定給付企業年金保険	1.35%－予定利率
新企業年金保険等	1.00%－予定利率
団体生存保険	0.75%－予定利率

2024年3月期決算に基づく当社「定期付終身保険」及び「養老保険」について、契約者配当金を例示しますと次のとおりです。

[毎年配当契約]

例1. 定期付終身保険（10倍型）の場合

契約年齢30歳、60歳払込満了、男性、年払、

死亡保険金3,000万円（保険料払込期間中）、300万円（保険料払込期間満了後）

契約年度	経過年数	継続中の契約	死亡契約
2000年度	24年	(191,964円) 32,940円	30,039,090円
1999年度	25年	(191,964円) 39,090円	30,047,430円
1998年度	26年	(178,980円) 30,390円	30,040,290円

(注) ① 「死亡契約」欄は、契約応当日以後死亡の場合の受取金額（保険金＋配当金）を示しています。

② ()内は、保険料を示しています。

例2. 養老保険の場合

契約年齢30歳、30年満期、男性、年払、保険金100万円

契約年度	経過年数	継続中の契約	満期・死亡契約
1999年度	25年	(30,028円) 0円	(死亡) 1,000,000円
1994年度	30年	(23,946円) -円	(満期) 1,000,000円

(注) ① 「満期・死亡契約」欄は、満期または契約応当日以後死亡の場合の受取金額（保険金+配当金）を示しています。

② ()内は、保険料を示しています。

[5年ごと利差配当契約]

例. 定期付終身保険（10倍型）の場合

契約年齢30歳、60歳払込満了、男性、年払、

死亡保険金3,000万円（保険料払込期間中）、300万円（保険料払込期間満了後）

契約年度	経過年数	継続中の契約
2004年度	20年	(184,233円) 0円

(注) ① 2004年7月1日契約の配当金を示しています。

② ()内は、保険料を示しています。

前記の配当金は以下のとおりです。

[毎年配当契約]

次の a, b, c, d を合計した金額とします。

- a. 危険保険金に被保険者の年齢・性別及び予定死亡表の区分に応じた死差益配当率を乗じた額
- b. 保険金に次の費差益配当率を乗じた額

満期保険金（定期付終身保険においては終身保険部分の死亡保険金）100万円につき

1964年4月1日以後	1,900円
1981年4月1日以前の契約	
1981年4月2日以後	1,250円
1985年4月1日以前の契約	
1985年4月2日以後	850円
1990年4月1日以前の契約	
1990年4月2日以後	500円
1993年4月1日以前の契約	
1993年4月2日以後	300円
1999年4月1日以前の契約	
1999年4月2日以後の契約	150円

定期付終身保険については、このほかに定期部分の保険金100万円につき

1996年4月2日以後	150円
1999年4月1日以前の契約	
1999年4月2日以後の契約	100円

ただし、配当回数が1回目の場合には0とし、保険金が2,000万円を超える契約で配当回数が4回目以降の場合には、保険金のうち2,000万円を超える部分に対して保険金100万円につき450円を加算します。

さらに、定期付終身保険・養老保険の主契約について、配当回数が4回目以降の場合で、保険金が500万円超2,000万円以下の部分に対して保険金100万円につき250円を加算します。

- c. 災害・疾病特約が付加されている場合には、その特約の種類に応じた額
- d. 責任準備金に次の予定利率に応じた利差益配当率を乗じた額

予定利率	2%契約	△0.35%
予定利率	2.75%契約	△1.30%
予定利率	3.75%契約	△2.30%
予定利率	5%契約	△3.75%
予定利率	5.5%契約	△4.25%

なお、a, b, c, d を合算し、合計額がマイナスの場合はその合計額を0とします。

[5年ごと利差配当契約]

責任準備金に利差益配当率を乗じた額を、5年間通算した金額とします。なお、合計額がマイナスの場合はその合計額を0とします。

4. 資産運用の実績（一般勘定）

（1）資産の構成

（単位：百万円、％）

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現預金・コールローン	566,436	7.7	538,835	7.4
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	113,753	1.5	113,984	1.6
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	—	—	—	—
有価証券	5,266,203	71.6	5,362,248	73.4
公社債	2,826,276	38.4	2,831,743	38.8
株式	431,903	5.9	538,475	7.4
外国証券	1,891,662	25.7	1,848,877	25.3
公社債	845,046	11.5	571,073	7.8
株式等	1,046,616	14.2	1,277,803	17.5
その他の証券	116,360	1.6	143,151	2.0
貸付金	1,064,886	14.5	992,203	13.6
保険約款貸付	26,700	0.4	23,754	0.3
一般貸付	1,038,185	14.1	968,449	13.3
不動産	227,343	3.1	221,028	3.0
繰延税金資産	44,375	0.6	—	—
その他	73,067	1.0	80,869	1.1
貸倒引当金	△1,478	△0.0	△1,520	△0.0
合 計	7,354,586	100.0	7,307,649	100.0
うち外貨建資産	1,934,349	26.3	1,857,337	25.4

（注）不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しています。

（2）資産の増減

（単位：百万円）

区 分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
現預金・コールローン	173,847	△27,600
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	△767	231
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	—
有価証券	△522,259	96,044
公社債	△153,790	5,466
株式	△1,193	106,572
外国証券	△354,970	△42,785
公社債	△628,915	△273,972
株式等	273,945	231,187
その他の証券	△12,304	26,791
貸付金	20,197	△72,682
保険約款貸付	△3,510	△2,946
一般貸付	23,708	△69,736
不動産	△2,553	△6,314
繰延税金資産	41,680	△44,375
その他	△48,888	7,802
貸倒引当金	240	△42
合 計	△338,503	△46,936
うち外貨建資産	△694,111	△77,011

（注）不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しています。

(3) 資産運用収益

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
利息及び配当金等収入	160,817	147,589
預貯金利息	1	0
有価証券利息・配当金	135,831	121,385
貸付金利息	9,679	10,341
不動産賃貸料	10,752	10,568
その他利息配当金	4,552	5,294
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	46,241	72,920
国債等債券売却益	10,853	506
株式等売却益	10,134	28,071
外国証券売却益	25,254	44,341
その他	—	—
有価証券償還益	369	—
金融派生商品収益	—	—
為替差益	6,932	12,370
貸倒引当金戻入額	240	—
その他運用収益	140	170
合 計	214,741	233,050

(4) 資産運用費用

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
支払利息	1,011	726
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	15,614	46,052
国債等債券売却損	1,571	4,179
株式等売却損	1,491	—
外国証券売却損	12,551	41,872
その他	—	—
有価証券評価損	1,437	3,820
国債等債券評価損	204	513
株式等評価損	—	—
外国証券評価損	1,233	3,306
その他	—	—
有価証券償還損	—	—
金融派生商品費用	46,197	65,291
為替差損	—	—
貸倒引当金繰入額	—	42
貸付金償却	—	—
賃貸用不動産等減価償却費	3,664	3,682
その他運用費用	3,585	4,953
合 計	71,510	124,570

(5) 資産運用収支

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
合 計	143,231	108,480

(参考) 金融派生商品収益・費用の内訳

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当事業年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
金利関連	—	—
通貨関連	△45,900	△64,325
株式関連	△84	△753
債券関連	△212	△212
その他	—	—
合 計	△46,197	△65,291

(6) 資産運用に係わる諸効率

①資産別運用利回り

(単位：%)

区 分	前事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当事業年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
現預金・コールローン	△0.02	0.07
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	0.95	1.02
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	—
有価証券	2.57	1.94
公社債	1.84	1.26
株式	6.27	14.38
外国証券	2.56	0.82
その他の証券	11.86	6.29
貸付金	0.85	1.21
うち一般貸付	0.78	1.16
不動産	2.13	2.00
一 般 勘 定 計	1.98	1.53
うち海外投融資	3.07	0.99

(注) 1. 利回り計算式の分母は帳簿価額ベースの日々平均残高、分子は経常損益中、「資産運用収益－資産運用費用」として算出した利回りです。

2. 海外投融資とは、外貨建資産と円建資産の合計です。

②日々平均残高

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当事業年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
現預金・コールローン	451,403	474,796
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	110,514	115,556
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	—
有価証券	5,305,005	5,127,026
公社債	2,871,177	2,854,921
株式	310,473	292,379
外国証券	2,018,559	1,885,872
その他の証券	104,794	93,854
貸付金	1,054,878	1,038,459
うち一般貸付	1,026,685	1,013,134
不動産	227,339	224,415
一 般 勘 定 計	7,235,929	7,086,697
うち海外投融資	2,285,851	2,056,873

(7) 売買目的有価証券の評価損益

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも該当はありません。

(8) 有価証券の時価情報 (売買目的有価証券以外)

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の債券	491,638	529,696	38,057	53,328	15,270
公社債	372,781	416,623	43,841	52,457	8,615
外国公社債	30,484	26,093	△4,390	12	4,403
買入金銭債権	88,373	86,979	△1,393	858	2,251
譲渡性預金	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	1,783,197	1,801,692	18,495	100,901	82,406
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—
其他有価証券	2,962,034	3,067,248	105,213	291,684	186,471
公社債	718,458	703,344	△15,114	17,312	32,426
株式	290,919	421,563	130,643	133,319	2,675
外国証券	1,850,803	1,821,770	△29,032	121,914	150,947
公社債	891,620	781,515	△110,104	4,115	114,220
株式等	959,183	1,040,255	81,071	117,799	36,727
その他の証券	77,316	95,190	17,873	18,022	148
買入金銭債権	24,535	25,379	844	1,116	272
譲渡性預金	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—
合 計	5,236,871	5,398,638	161,766	445,915	284,148
公社債	2,841,391	2,889,316	47,924	170,584	122,659
株式	290,919	421,563	130,643	133,319	2,675
外国証券	1,914,334	1,880,208	△34,125	122,013	156,139
公社債	955,150	839,953	△115,197	4,214	119,412
株式等	959,183	1,040,255	81,071	117,799	36,727
その他の証券	77,316	95,190	17,873	18,022	148
買入金銭債権	112,908	112,359	△549	1,975	2,524
譲渡性預金	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—

(注) 1. 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。
2. 市場価格のない株式等および組合等は本表から除いています。

(単位：百万円)

区 分	当事業年度末 (2024年3月31日)				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の債券	469,972	474,891	4,918	31,093	26,175
公社債	347,249	364,775	17,525	30,775	13,249
外国公社債	32,792	27,247	△5,544	—	5,544
買入金銭債権	89,930	82,868	△7,062	318	7,380
譲渡性預金	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	1,771,714	1,697,459	△74,254	58,562	132,817
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—
その他の有価証券	2,853,939	3,201,576	347,636	495,502	147,865
公社債	774,421	745,916	△28,505	11,110	39,616
株式	262,723	528,228	265,504	265,504	—
外国証券	1,704,984	1,779,447	74,463	181,837	107,374
公社債	584,186	505,143	△79,043	1,457	80,500
株式等	1,120,797	1,274,303	153,506	180,380	26,873
その他の証券	87,418	123,930	36,512	36,512	—
買入金銭債権	24,391	24,054	△337	537	875
譲渡性預金	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—
合 計	5,095,626	5,373,927	278,300	585,158	306,858
公社債	2,860,248	2,776,187	△84,061	100,396	184,457
株式	262,723	528,228	265,504	265,504	—
外国証券	1,770,914	1,838,658	67,744	181,889	114,144
公社債	650,116	564,354	△85,761	1,508	87,270
株式等	1,120,797	1,274,303	153,506	180,380	26,873
その他の証券	87,418	123,930	36,512	36,512	—
買入金銭債権	114,322	106,922	△7,399	856	8,255
譲渡性預金	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—

(注) 1. 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。
2. 市場価格のない株式等および組合等は本表から除いています。

○満期保有目的の債券

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)			当事業年度末 (2024年3月31日)		
	貸借対照表 計上額	時 価	差 額	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	334,555	387,883	53,328	294,795	325,889	31,093
公社債	310,667	363,125	52,457	284,479	315,255	30,775
外国証券	2,000	2,012	12	—	—	—
買入金銭債権	21,887	22,745	858	10,315	10,633	318
その他	—	—	—	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	157,083	141,812	△ 15,270	175,177	149,001	△ 26,175
公社債	62,113	53,498	△ 8,615	62,769	49,520	△ 13,249
外国証券	28,484	24,080	△ 4,403	32,792	27,247	△ 5,544
買入金銭債権	66,485	64,233	△ 2,251	79,615	72,234	△ 7,380
その他	—	—	—	—	—	—

○責任準備金対応債券

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)			当事業年度末 (2024年3月31日)		
	貸借対照表 計上額	時 価	差 額	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	1,038,798	1,139,700	100,901	803,066	861,628	58,562
公社債	1,031,568	1,132,383	100,815	798,066	856,577	58,510
外国証券	7,229	7,316	86	5,000	5,051	51
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	744,399	661,992	△ 82,406	968,647	835,830	△ 132,817
公社債	718,582	636,964	△ 81,617	940,510	808,919	△ 131,591
外国証券	25,816	25,027	△ 788	28,137	26,911	△ 1,225
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—

○その他有価証券

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)			当事業年度末 (2024年3月31日)		
	帳簿価額	貸借対照表 計上額	差 額	帳簿価額	貸借対照表 計上額	差 額
貸借対照表計上額が 帳簿価額を超えるもの	1,234,163	1,525,848	291,684	1,393,838	1,889,341	495,502
公社債	246,505	263,817	17,312	176,532	187,642	11,110
株式	246,301	379,620	133,319	262,723	528,228	265,504
外国証券	661,800	783,714	121,914	855,297	1,037,135	181,837
その他の証券	67,066	85,088	18,022	87,418	123,930	36,512
買入金銭債権	12,489	13,606	1,116	11,867	12,405	537
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
貸借対照表計上額が 帳簿価額を超えないもの	1,727,871	1,541,399	△ 186,471	1,460,100	1,312,235	△ 147,865
公社債	471,953	439,526	△ 32,426	597,889	558,273	△ 39,616
株式	44,618	41,942	△ 2,675	—	—	—
外国証券	1,189,003	1,038,056	△ 150,947	849,686	742,312	△ 107,374
その他の証券	10,250	10,101	△ 148	—	—	—
買入金銭債権	12,045	11,773	△ 272	12,524	11,649	△ 875
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—

・市場価格のない株式等および組合等の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
子会社・関連会社株式	6,962	6,871
その他有価証券	29,473	25,603
国内株式	3,830	3,829
外国株式	5,048	2,094
その他	20,594	19,679
合 計	36,436	32,474

・市場価格のない株式等および組合等について為替等を評価したものを含めた有価証券の時価情報は以下のとおりです。
(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の債券	491,638	529,696	38,057	53,328	15,270
公社債	372,781	416,623	43,841	52,457	8,615
外国公社債	30,484	26,093	△4,390	12	4,403
買入金銭債権	88,373	86,979	△1,393	858	2,251
譲渡性預金	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	1,783,197	1,801,692	18,495	100,901	82,406
子会社・関連会社株式	6,962	6,942	△20	—	20
その他有価証券	2,991,508	3,098,157	106,649	293,274	186,625
公社債	718,458	703,344	△15,114	17,312	32,426
株式	294,750	425,393	130,643	133,319	2,675
外国証券	1,856,716	1,827,679	△29,037	122,064	151,102
公社債	891,620	781,515	△110,104	4,115	114,220
株式等	965,096	1,046,163	81,066	117,948	36,881
その他の証券	97,046	116,360	19,313	19,462	148
買入金銭債権	24,535	25,379	844	1,116	272
譲渡性預金	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—
合 計	5,273,307	5,436,489	163,181	447,505	284,323
公社債	2,841,391	2,889,316	47,924	170,584	122,659
株式	301,259	431,903	130,643	133,319	2,675
外国証券	1,920,700	1,886,549	△34,151	122,163	156,314
公社債	955,150	839,953	△115,197	4,214	119,412
株式等	965,549	1,046,595	81,046	117,948	36,902
その他の証券	97,046	116,360	19,313	19,462	148
買入金銭債権	112,908	112,359	△549	1,975	2,524
譲渡性預金	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

(単位：百万円)

区 分	当事業年度末 (2024年3月31日)				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の債券	469,972	474,891	4,918	31,093	26,175
公社債	347,249	364,775	17,525	30,775	13,249
外国公社債	32,792	27,247	△5,544	—	5,544
買入金銭債権	89,930	82,868	△7,062	318	7,380
譲渡性預金	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	1,771,714	1,697,459	△74,254	58,562	132,817
子会社・関連会社株式	6,871	6,909	37	48	10
その他有価証券	2,879,542	3,227,674	348,131	496,035	147,904
公社債	774,421	745,916	△28,505	11,110	39,616
株式	266,552	532,057	265,504	265,504	—
外国証券	1,707,855	1,782,494	74,638	182,052	107,413
公社債	584,186	505,143	△79,043	1,457	80,500
株式等	1,123,668	1,277,350	153,682	180,594	26,912
その他の証券	106,320	143,151	36,831	36,831	—
買入金銭債権	24,391	24,054	△337	537	875
譲渡性預金	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—
合 計	5,128,101	5,406,934	278,832	585,740	306,907
公社債	2,860,248	2,776,187	△84,061	100,396	184,457
株式	272,971	538,475	265,504	265,504	—
外国証券	1,774,238	1,842,196	67,958	182,152	114,194
公社債	650,116	564,354	△85,761	1,508	87,270
株式等	1,124,121	1,277,841	153,719	180,643	26,923
その他の証券	106,320	143,151	36,831	36,831	—
買入金銭債権	114,322	106,922	△7,399	856	8,255
譲渡性預金	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

(9) 金銭の信託の時価情報

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

(10) 土地等の時価情報

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)					当事業年度末 (2024年3月31日)				
	貸借対照表 計上額	時価	差損益	差益	差損	貸借対照表 計上額	時価	差損益	差益	差損
土 地	132,425	199,115	66,689	73,012	6,322	127,594	198,664	71,070	76,303	5,232
借 地 権	160	123	△37	—	37	160	135	△25	—	25
合 計	132,586	199,238	66,652	73,012	6,359	127,755	198,800	71,044	76,303	5,258

(注) 時価は、原則として鑑定評価額(重要度の低い物件等については公示価格等)をもとに算出しています。

(11) デリバティブ取引の時価情報

①差損益の内訳(ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳)

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)					
	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計
ヘッジ会計適用分	134	△6,498	—	—	—	△6,364
ヘッジ会計非適用分	—	△551	△79	—	—	△630
合 計	134	△7,049	△79	—	—	△6,994

(単位：百万円)

区 分	当事業年度末 (2024年3月31日)					
	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計
ヘッジ会計適用分	45	△18,778	△10,741	—	—	△29,474
ヘッジ会計非適用分	—	△513	△96	—	—	△610
合 計	45	△19,292	△10,837	—	—	△30,084

- (注) 1. ヘッジ会計適用分のうち時価ヘッジ適用分の差損益(前事業年度末：通貨関連 △6,498百万円、当事業年度末：通貨関連 △18,778百万円、株式関連 △10,741百万円)、及びヘッジ会計非適用分の差損益は損益計算書に計上されています。
2. 為替予約等により決済時における円貨額が確定しており、貸借対照表において当該円貨額で表示されている外貨建金銭債権債務等に係る当該為替予約等は、開示の対象より除いています。

②ヘッジ会計が適用されていないもの

○金利関連

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

○通貨関連

(単位：百万円)

区分	種類	前事業年度末 (2023年3月31日)				当事業年度末 (2024年3月31日)			
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
店頭	為替予約								
	売 建	39,972	—	△645	△645	31,002	—	△513	△513
	(うち米ドル)	34,423	—	△572	△572	26,676	—	△462	△462
	(うちユーロ)	3,383	—	△127	△127	3,042	—	△17	△17
	(うち豪ドル)	2,166	—	54	54	1,283	—	△33	△33
	買 建	59	—	△0	△0	—	—	—	—
	(うち米ドル)	59	—	△0	△0	—	—	—	—
	通貨オプション								
	売 建								
	コール	209,177	—			—	—		
	(うち米ドル)	(648)	—	187	461	(—)	—	—	—
買 建									
プット	181,202	—			—	—			
(うち米ドル)	(648)	—	280	△367	(—)	—	—	—	
(うち米ドル)	181,202	—	280	△367	(—)	—	—	—	
合 計				△551				△513	

- (注) 1. 各事業年度末の為替予約の評価は、主に先渡価格を考慮しています。
 2. 為替予約の「時価」欄には、差損益を記載しています。
 3. 括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。
 4. オプション取引の「差損益」欄には、オプション料と時価との差額を記載しています。

○株式関連

(単位：百万円)

区分	種類	前事業年度末 (2023年3月31日)				当事業年度末 (2024年3月31日)			
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
店頭	株価指数オプション								
	売 建								
	コール	60,145	—			—	—		
		(228)		161	66	(—)		—	—
買 建									
プット	50,162	—			99,430	—			
		(205)		59	△145	(101)		4	△96
合 計					△79				△96

- (注) 1. 括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。
 2. オプション取引の「差損益」欄には、オプション料と時価との差額を記載しています。

○債券関連

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

○その他

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

③ヘッジ会計が適用されているもの

○金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	前事業年度末 (2023年3月31日)			当事業年度末 (2024年3月31日)		
			契約額等	うち1年超	時価	契約額等	うち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ 固定金利受取/ 変動金利支払	貸付金	17,408	14,628	134	14,232	994	45
合 計					134			45

(参考) 金利スワップ残存期間別想定元本残高

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)						
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	合 計
固定金利受取/ 変動金利支払	2,780	14,628	—	—	—	—	17,408
(平均受取金利)	0.85%	0.91%	—	—	—	—	0.90%
(平均支払金利)	0.08%	0.31%	—	—	—	—	0.27%

(単位：百万円)

区 分	当事業年度末 (2024年3月31日)						
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	合 計
固定金利受取/ 変動金利支払	13,238	994	—	—	—	—	14,232
(平均受取金利)	0.92%	0.80%	—	—	—	—	0.91%
(平均支払金利)	0.35%	0.30%	—	—	—	—	0.34%

○通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	前事業年度末 (2023年3月31日)			当事業年度末 (2024年3月31日)		
			契約額等	うち1年超	時価	契約額等	うち1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	為替予約	外貨建資産						
	売 建		1,189,974	—	△ 6,498	1,050,274	—	△ 18,778
	(うち米ドル)		940,727	—	△ 1,899	879,339	—	△ 16,602
	(うちユーロ)		208,726	—	△ 4,734	160,767	—	△ 1,991
	(うち豪ドル)		25,559	—	464	10,167	—	△ 184
	(うち英ポンド)	14,960	—	△ 328	—	—	—	
為替予約等の振当処理	通貨スワップ	外貨建貸付金	37,937	29,442	—	29,442	29,442	—
	(うち米ドル)		37,937	29,442	—	29,442	29,442	—
合 計				△ 6,498			△ 18,778	

- (注) 1. 各事業年度末の為替予約の評価は、主に先渡価格を考慮しています。
 2. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建貸付金と一体として処理されているため、その時価は、当該外貨建貸付金の時価に含めて記載しています。
 3. 為替予約の「時価」欄には、差損益を記載しています。

○株式関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	前事業年度末 (2023年3月31日)			当事業年度末 (2024年3月31日)		
			契約額等	うち1年超	時価	契約額等	うち1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	先渡契約	外国株式等						
	売 建		—	—	—	60,872	—	△10,741
合 計				—			△10,741	

(注) 先渡契約の「時価」欄には、差損益を記載しています。

○債券関連

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

○その他

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

④ヘッジ会計適用分・非適用分の合算値

○金利関連

(単位：百万円)

区分	種類	前事業年度末 (2023年3月31日)				当事業年度末 (2024年3月31日)			
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
店頭	金利スワップ 固定金利受取/ 変動金利支払	17,408	14,628	134	134	14,232	994	45	45
	合計				134				45

(注) 金利スワップの「時価」欄には、差損益を記載しています。

○通貨関連

(単位：百万円)

区分	種類	前事業年度末 (2023年3月31日)				当事業年度末 (2024年3月31日)			
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
店頭	為替予約								
	売 建	1,229,946	—	△7,143	△7,143	1,081,276	—	△19,292	△19,292
	(うち米ドル)	975,150	—	△2,471	△2,471	906,015	—	△17,065	△17,065
	(うちユーロ)	212,109	—	△4,861	△4,861	163,809	—	△2,009	△2,009
	(うち豪ドル)	27,726	—	518	518	11,451	—	△218	△218
	(うち英ポンド)	14,960	—	△328	△328	—	—	—	—
	買 建	59	—	△0	△0	—	—	—	—
	(うち米ドル)	59	—	△0	△0	—	—	—	—
	通貨オプション								
	売 建								
	コール	209,177	—			—	—		
	(648)			187	461	(—)		—	—
	(うち米ドル)	209,177	—			—	—		
	(648)			187	461	(—)		—	—
買 建									
プット	181,202	—			—	—			
(648)			280	△367	(—)		—	—	
(うち米ドル)	181,202	—			—	—			
(648)			280	△367	(—)		—	—	
	合計				△7,049				△19,292

- (注) 1. 各事業年度末の為替予約の評価は、主に先渡価格を考慮しています。
 2. 為替予約等により決済時における円貨額が確定しており、貸借対照表において当該円貨額で表示されている外貨建金銭債権債務等に係る当該為替予約等は、開示の対象より除いています。
 3. 為替予約の「時価」欄には、差損益を記載しています。
 4. 括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。
 5. オプション取引の「差損益」欄には、オプション料と時価との差額を記載しています。

○株式関連

(単位：百万円)

区分	種類	前事業年度末 (2023年3月31日)				当事業年度末 (2024年3月31日)			
		契約額等	うち1年超	時価	差損益	契約額等	うち1年超	時価	差損益
店頭	先渡契約								
	売 建	—	—	—	—	60,872	—	△10,741	△10,741
	株価指数オプション								
	売 建								
	コール	60,145 (228)	—	161	66	— (—)	—	—	—
買 建									
プット	50,162 (205)	—	59	△145	99,430 (101)	—	4	△96	
	合 計				△79				△10,837

- (注) 1. 先渡契約の「時価」欄には、差損益を記載しています。
 2. 括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。
 3. オプション取引の「差損益」欄には、オプション料と時価との差額を記載しています。

○債券関連

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

○その他

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

5. 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
(資産の部)		
現金及び預貯金	566,442	538,841
現金	47	28
預貯金	566,395	538,813
買入金銭債権	113,753	113,984
有価証券	5,266,364	5,362,444
国債	1,612,825	1,624,068
地方債	212,641	223,445
社債	1,000,809	984,229
株式	431,903	538,475
外国証券	1,891,662	1,848,877
その他の証券	116,522	143,348
貸付金	1,064,886	992,203
保険約款貸付	26,700	23,754
一般貸付	1,038,185	968,449
有形固定資産	229,321	223,156
土地	132,425	127,594
建物	90,658	88,394
リース資産	1,609	1,680
建設仮勘定	4,258	5,039
その他の有形固定資産	368	447
無形固定資産	10,436	11,100
ソフトウェア	9,350	10,131
リース資産	642	529
その他の無形固定資産	443	439
再保険貸	19,829	18,137
その他資産	38,077	38,766
未収金	2,975	11,099
前払費用	2,653	2,334
未収収益	21,996	18,390
預託金	566	717
金融派生商品	7,485	8
金融商品等差入担保金	1,445	5,210
仮払金	251	213
その他の資産	704	792
前払年金費用	2,744	10,736
繰延税金資産	44,375	—
貸倒引当金	△1,478	△1,520
資産の部合計	7,354,754	7,307,852

(単位：百万円)

科目	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
(負債の部)		
保険契約準備金	5,915,649	5,885,922
支払備金	22,630	23,547
責任準備金	5,870,966	5,839,533
契約者配当準備金	22,052	22,841
再保険借	167	130
その他負債	1,033,660	816,961
債券貸借取引受入担保金	917,899	706,530
借入金	50,000	50,000
未払法人税等	3,881	1,640
未払金	1,398	1,189
未払費用	12,822	14,053
前受収益	884	737
預り金	595	877
預り保証金	8,980	8,853
金融派生商品	14,636	30,037
金融商品等受入担保金	19,696	—
リース債務	2,533	2,503
仮受金	328	535
その他の負債	3	3
役員賞与引当金	135	90
退職給付引当金	19,755	18,560
価格変動準備金	134,651	137,775
繰延税金負債	—	24,833
再評価に係る繰延税金負債	4,456	4,356
負債の部合計	7,108,475	6,888,630
(純資産の部)		
資本金	62,500	62,500
資本剰余金	62,500	62,500
資本準備金	62,500	—
その他資本剰余金	—	62,500
利益剰余金	78,799	62,667
その他利益剰余金	78,799	62,667
不動産圧縮積立金	416	400
繰越利益剰余金	78,383	62,266
株主資本合計	203,799	187,667
₁ 他有価証券評価差額金	79,110	253,187
繰延ヘッジ損益	△2,374	△2,221
土地再評価差額金	△34,256	△19,410
評価・換算差額等合計	42,479	231,554
純資産の部合計	246,278	419,221
負債及び純資産の部合計	7,354,754	7,307,852

(貸借対照表注記)

1. 有価証券(現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む。)の評価は、売買目的有価証券については時価法(売却原価の算定は移動平均法)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式(保険業法第2条第12項に規定する子会社及び保険業法施行令第13条の5の2第3項に規定する子法人等のうち子会社を除いたもの及び関連法人等が発行する株式をいう。)については原価法、その他有価証券については、3月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法、取得差額が金利調整差額と認められる公社債(外国債券を含む。))については移動平均法による償却原価法(定額法)、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法)によっております。

また、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

2. 責任準備金対応債券のリスク管理方針

アセットミックスによりポートフォリオ全体のリスク減殺効果を図り、負債コストを中長期的に上回ることを目指したバランス型ALMに基づく運用方針をたて、管理しております。

このような運用方針を踏まえ、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づいて、以下の保険契約を特定し小区分としております。

- ・一般資産区分については、団体保険商品区分、その他の商品区分、無配当通貨指定型一時払個人年金保険及び無配当通貨指定型生存給付金付特別養老保険等を除くすべての保険契約
- ・一般資産区分における無配当通貨指定型一時払個人年金保険及び無配当通貨指定型生存給付金付特別養老保険については、通貨別にすべての保険契約
- ・団体年金保険資産区分については、すべての拠出型企業年金保険契約
- ・利率変動型一時払保険資産区分については、すべての保険契約

(追加情報)

団体年金保険資産区分については、従来、すべての拠出型企業年金保険契約及びすべての団体生存保険契約を対象としておりましたが、このうち団体生存保険契約は、当該小区分における責任準備金残高の減少及びデュレーションが短期化したことにより、責任準備金対応債券を用いたリスク管理の意義が薄れていることから、当事業年度より小区分から除くこととしております。なお、この変更による貸借対照表及び損益計算書への影響はありません。

3. デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。

4. 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

- ・再評価を行った年月日 2002年3月31日
- ・同法律第3条第3項に定める再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第1号に定める標準地の公示価格、同条第2号に定める基準地の標準価格及び同条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価ほかに基づき、合理的な調整を行って算定しております。

5. 有形固定資産(リース資産を除く。)の減価償却は、主として定率法により、1998年4月1日以降に取得した建物(2016年3月31日以前に取得した建物附属設備及び構築物を除く。)については定額法により行っております。

リース資産の減価償却は、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とする定額法により行っております。

6. 外貨建資産・負債(在外子会社等は除く。)は、3月末日の直物為替相場により円換算しております。

なお、在外子会社等は、取得時の為替相場により円換算しております。

7. 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者(以下「実質破綻先」という。)に対する債権については、下記直接減額後の債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現状では経営破綻の状況にはないものの、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控

除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等を債権額に乗じた額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は206百万円であります。

8. 役員賞与引当金は、役員の賞与の支払いに備えるため、当事業年度末における支給見込額を計上しております。

9. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。

退職給付債務並びに退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準
数理計算上の差異の処理年数	発生年度に全額を費用処理
過去勤務費用の処理年数	発生年度に全額を費用処理

10. 価格変動準備金は、価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

11. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法は、繰延ヘッジ処理及び時価ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理及び振当処理の要件を満たしている通貨スワップについては振当処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)
金利スワップ	貸付金、債券
通貨スワップ	外貨建貸付金
為替予約、通貨オプション	外貨建資産
オプション	国内・外国株式、国内・外国上場投資信託、国内債券
信用取引	国内・外国株式、国内・外国上場投資信託
先渡取引	国内・外国株式、国内・外国上場投資信託

(3) ヘッジ方針

資産運用に係るリスク管理の方針を踏まえた社内規程等に基づき、ヘッジ対象に係るキャッシュ・フロー変動リスク及び価格変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較する比率分析等の方法により、半期ごとにヘッジの有効性を評価しております。ただし、特例処理等によっている金利スワップ、振当処理によっている通貨スワップ、ヘッジ対象資産とヘッジ手段が同一通貨の為替予約及び通貨オプション、国内・外国株式及び国内・外国上場投資信託をヘッジ対象とするオプション、信用取引及び先渡取引、国内債券をヘッジ対象とするオプションについては、有効性の評価を省略しております。

(「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」を適用しているヘッジ関係)

上記のヘッジ関係のうち、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」(実務対応報告第40号 2022年3月17日)の適用範囲に含まれるヘッジ関係のすべてに、当該実務対応報告に定められる特例的な取扱いを適用しております。当該実務対応報告を適用しているヘッジ関係の内容は、以下のとおりです。

・ヘッジ会計の方法	金利スワップの特例処理
・ヘッジ手段	金利スワップ取引
・ヘッジ対象	貸付金
・ヘッジ取引の種類	キャッシュ・フローを固定するもの

12. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、当事業年度に費用処理しております。

13. 責任準備金

当事業年度末時点において、保険契約上の責任が開始している契約について、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、保険業法第116条第1項に基づき、保険料及び責任準備金の算出方法書（保険業法第4条第2項第4号）に記載された方法に従って計算し、責任準備金を積み立てております。

責任準備金のうち保険料積立金については、次の方式により計算しております。

(1) 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）

(2) 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式

なお、責任準備金については、保険業法第121条第1項及び保険業法施行規則第80条に基づき、毎決算期において責任準備金が適正に積み立てられているかどうかを、保険計理人が確認しております。

責任準備金のうち危険準備金については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第3号に基づき、保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて積み立てております。

14. 保険料等収入

保険料等収入（再保険収入を除く。）は、原則として、収納があり、保険契約上の責任が開始しているものについて、当該収納した金額により計上しております。

なお、収納した保険料のうち、当事業年度末時点において未経過となっている期間に対応する部分については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第2号に基づき、責任準備金に積み立てております。

15. 再保険収入

再保険収入は、再保険協約に基づき計上しております。

なお、当該再保険に付した部分に相当する責任準備金及び支払備金は、保険業法施行規則第71条第1項及び同規則第73条第3項に基づき不積立としております。

16. 保険金等支払金・支払備金

保険金等支払金（再保険料を除く。）は、保険約款に基づく支払事由が発生し、当該約款に基づいて算定された金額を支払った契約について、当該金額により計上しております。

なお、保険業法第117条及び保険業法施行規則第72条に基づき、当事業年度末時点において支払義務が発生したもの、又は、まだ支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められるもの（以下「既発生未報告支払備金」という。）のうち、それぞれ保険金等の支出として計上していないものについて、支払備金を積み立てております。

既発生未報告支払備金については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設又は自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下「みなし入院」という。）等に入院給付金等を支払う特別取扱を2023年5月8日以降終了したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しております。

（計算方法の概要）

IBNR告示第1条第1項本則に掲げる全ての事業年度の既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額から、みなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しております。

なお、前事業年度末においては、当該みなし入院に係る額の代わりに、重症化リスクの高い方以外のみなし入院に係る額を除外しておりましたが、当事業年度にみなし入院の入院給付金の取扱いを終了したことにより、当該みなし入院に係る額を除外して算出する方法に見直しております。

17. 無形固定資産（リース資産を除く。）に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間に基づく定額法により行っております。

リース資産の減価償却は、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とする定額法により行っております。

18. 収益認識

売上高にかわる経常収益の内訳は、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）第3項により同会計基準適用対象外となる保険料等収入及び資産運用収益が大半であり、顧客との契約から生じる収益は重要性に乏しいため、記載を省略しております。

19. 重要な会計上の見積り

(1) 責任準備金

①当事業年度の計算書類に計上した金額

責任準備金	5,839,533百万円
責任準備金戻入額	31,433百万円

②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

イ. 算出方法

「貸借対照表注記-13」に記載のとおりであります。

ロ. 主要な仮定及び翌事業年度の計算書類に与える影響等

保険料及び責任準備金の算出方法書に記載された計算前提（予定発生率・予定利率等の基礎率）が、直近の実績と大きく乖離することにより、将来の債務履行に支障を来すおそれがあると認められる場合には、保険業法施行規則第69条第5項に基づき、追加の責任準備金を計上する必要があります。

(2) 退職給付に関する会計処理

①当事業年度の計算書類に計上した金額

前払年金費用	10,736百万円
退職給付引当金	18,560百万円

②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

イ. 算出方法

退職給付債務及び退職給付費用は、将来の退職給付債務算出に用いる数理計算上の前提条件や年金資産の長期期待運用収益率等に基づいて算出しております。

なお、退職給付見込額の期間帰属方法については、「貸借対照表注記-9」に記載のとおりであります。

ロ. 主要な仮定及び翌事業年度の計算書類に与える影響等

数理計算上の計算基礎に関する事項は、「貸借対照表注記-33」に記載のとおりであり、主要な仮定である割引率や長期期待運用収益率等が変動した場合、前払年金費用及び退職給付引当金に重要な影響を与える可能性があります。

(3) 固定資産の減損

①当事業年度の計算書類に計上した金額

減損損失	303百万円
------	--------

②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

イ. 算出方法

資産のグルーピング方法については、「損益計算書注記-8-(1)」に記載のとおりであります。

減損の兆候がある資産グループについては、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合に減損損失を認識し、帳簿価額から回収可能価額（割引後の将来キャッシュ・フローと正味売却価額のいずれか大きい方）を控除した額を損失として計上しております。

ロ. 主要な仮定及び翌事業年度の計算書類に与える影響等

減損の認識の判定に用いる割引前将来キャッシュ・フローの主要な仮定は、営業用資産については、中期計画等に基づく保険営業活動から生じる損益を使用しており、投資用資産については、物件ごとの過去実績及び今後の収支見込みに基づき算出しております。

主要な仮定である保険営業活動から生じる損益や収支見込みが悪化し、割引前将来キャッシュ・フローが変動した場合、減損損失を計上する可能性があります。

20. 金融商品関係

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当社は、生命保険事業を主たる事業として各種生命保険の引受けを行っており、保険料として収受した金銭等を有価証券、貸付金等の金融資産にて運用しております。

資産運用に際しては、ご契約者の信頼を第一に考え、資本・収益・リスクを一体的に管理するERM（エンタープライズ・リスク・マネジメント）の下で、長期に安定した収益を確保できるポートフォリオを構築し、健全性や公共性に配慮しながら取り組むことを基本方針としております。

この考え方に従い、安定した利息収入の確保に向けて国内公社債や貸付金等の円金利資産を中心に投資するとともに、厳格なリスク管理のもと、株式や外国証券にも一部投資を行っております。

なお、デリバティブ取引は、金融資産の運用に際して生じる価格変動リスク等をヘッジする目的で利用することを基本としております。

また、より一層財務内容の健全性を向上させることを目的として、劣後性資金（社債、借入金）の調達を行っております。

②金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融資産は、主として有価証券及び貸付金であります。

有価証券の種類は、国内外の公社債、株式、投資信託等であり、安定的な収益確保に加え、市場見通しに基づく運用や長期保有による運用収益の獲得等を目的に保有しており、これらは、発行体の信用リスク、金利、為替、株式等の相場変動による市場リスク及び流動性リスクに晒されております。

貸付金には、保険契約者に対する保険約款貸付のほか、当該保険約款貸付以外の貸付で主に国内の企業や個人

向けの一般貸付があります。一般貸付は、安定的な収益確保を目的に実施しておりますが、貸付先の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。なお、保険約款貸付は、解約返戻金の範囲内で行っており、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引は、主に金融資産の価格変動リスク等をヘッジする目的で株価指数先物取引、株式先渡取引、為替予約取引、金利スワップ取引等を行っており、投機的な取引は行っておりません。

デリバティブ取引には、現物資産と同様に市場リスクや信用リスクが存在しておりますが、取組みにあたっては、取引内容、ヘッジ対象、取引枠等の許容範囲を明確にすることにより、リスク管理の徹底を図っております。

なお、ヘッジとして取り組むデリバティブ取引に対するヘッジ会計の適用については、適用要件、対象取引、有効性の評価方法及び指定方法を社内規程に明確に定め、貸付金等に係る金利スワップ、外貨建資産に係る為替予約取引及び通貨スワップ・通貨オプション、国内・外国株式、国内・外国上場投資信託に係る先渡取引及びオプション、円建債券に係るオプション等を適用対象として適正に行っております。ヘッジの有効性の判定は、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを比較する比率分析の方法によるものであります。ただし、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件が同一であり、ヘッジに高い有効性がある場合には、ヘッジの有効性の判定を省略しております。

③金融商品に係るリスク管理体制

イ. 全般的なリスク管理体制

当社では、生命保険事業の社会公共性等に鑑み、経営の健全性及び適切性を確保するため、リスクを的確に把握し管理していくことを経営の重要課題のひとつとして位置づけ、取締役会がリスク管理の基本的な考え方を定めた「リスク管理基本方針」を策定し、それに基づきリスク管理体制を整備しております。

組織面では、リスク管理に関する一元的な体制の確立及びリスク管理の徹底を期することを目的として、リスク統括委員会等を設置するとともに、各リスクを適切に管理するため、資産運用部門の投融資執行部門と事務管理部門の分離、審査部門の独立、内部監査部門による内部監査の実施など、内部牽制が働く体制としております。また、資本・収益・リスクを一体的に管理するERM（エンタープライズ・リスク・マネジメント）の下で徹底したリスク管理を実施しております。

なお、T&Dホールディングスを中心に、グループとしてのリスク管理体制の整備・充実も図っております。

ロ. 市場リスクの管理

市場リスクに関しては、金利、株価、為替等の運用環境の変化に対する保有資産の感応度を把握するとともに、バリュー・アット・リスク（以下「VaR」という。）を用いてポートフォリオ全体としてリスクを把握し、資金配分の見直しやリスクヘッジなどによりリスクを適切にコントロールしております。

ハ. 信用リスクの管理

信用リスクに関しては、与信先ごとに付与した社内格付を活用してVaRを用いたリスクの計量化を行い、ポートフォリオ全体としてリスクを把握・コントロールしております。また、リスクに応じて業種や企業グループ単位での投融資限度額等を設定し、特定業種・企業グループへの与信集中を制御しております。

ニ. 流動性リスクの管理

流動性リスクに関しては、リスク管理部門が流動性の高い資産の確保の状況、キャッシュ・フローの状況、金融証券市場の動向、個別金融商品の状況等を把握することにより管理しております。

④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資（以下「組合出資金等」という。）は、次表には含めておりません。（注）を参照ください。）

また、現金及び預貯金、買入金銭債権のうちコマースパーパー、債券貸借取引受入担保金は主に短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
①買入金銭債権	107,985	100,922	△7,062
イ. 有価証券として取り扱うもの	107,985	100,922	△7,062
・満期保有目的の債券	83,930	76,868	△7,062
・その他有価証券	24,054	24,054	—
ロ. 上記以外	—	—	—
②有価証券	5,329,474	5,267,200	△62,274
イ. 売買目的有価証券	196	196	—
ロ. 満期保有目的の債券	380,042	392,022	11,980
ハ. 責任準備金対応債券	1,771,714	1,697,459	△74,254
ニ. その他有価証券(*1)	3,177,522	3,177,522	—
③貸付金	991,299	983,563	△7,736
イ. 保険約款貸付(*2)	23,754	26,066	2,312
ロ. 一般貸付(*2)	968,449	957,496	△10,953
ハ. 貸倒引当金(*3)	△904	—	—
資産計	6,428,759	6,351,687	△77,072
借入金	50,000	49,747	△252
負債計	50,000	49,747	△252
金融派生商品(*4)	(30,028)	(29,983)	45
・ヘッジ会計が適用されていないもの	(508)	(508)	—
・ヘッジ会計が適用されているもの(*5)	(29,519)	(29,474)	45

(*1) 一部の投資信託について、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従い、投資信託の基準価額を時価とみなしており、当該投資信託が含まれております。

(*2) 差額欄は、貸倒引当金を控除した貸借対照表計上額と、時価との差額を記載しております。

(*3) 貸付金に対応する貸倒引当金を控除しております。

(*4) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

金融派生商品の「時価」欄において、時価ヘッジに係る取引等は貸借対照表に計上されている金額を記載しております。なお、「差額」欄に記載されている金額は、金利スワップの特例処理によるものです。

また、通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建貸付金と一体として処理しているため、その時価は、当該外貨建貸付金の時価に含めて記載しております。

(*5) 一部の金利スワップの特例処理に関して、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」（実務対応報告第40号 2022年3月17日）を適用しております。

(注) 当事業年度末において、市場価格のない株式等（非上場株式等）及び組合出資金等の貸借対照表計上額は次のとおりであり、「②有価証券」には含めておりません。

（単位：百万円）

区分	貸借対照表計上額
関連会社株式（非上場株式）(*1)	6,871
その他有価証券	26,097
非上場株式等(*1)(*2)	16,270
組合出資金等(*2)(*3)	9,827

(*1) 非上場株式等については、市場価格がないことから「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(*2) 非上場株式等及び組合出資金等について、3,125百万円減損処理を行っております。

(*3) 組合出資金等については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

①時価で貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権	—	21,829	2,224	24,054
その他有価証券	—	21,829	2,224	24,054
有価証券(*)	1,390,517	1,267,664	22,023	2,680,205
売買目的有価証券	—	196	—	196
その他の証券	—	196	—	196
その他有価証券	1,390,517	1,267,468	22,023	2,680,009
公社債	364,060	381,855	0	745,916
国債	331,298	—	—	331,298
地方債	—	35,240	—	35,240
社債	32,761	346,615	0	379,376
株式	528,228	—	—	528,228
外国証券	443,249	856,114	22,023	1,321,387
外国公社債	240,091	243,028	22,023	505,143
外国その他の証券	203,157	613,085	—	816,243
その他の証券	54,979	29,498	—	84,478
金融派生商品	—	8	—	8
通貨関連	—	4	—	4
株式関連	—	4	—	4
資産計	1,390,517	1,289,502	24,248	2,704,268
金融派生商品	—	30,037	—	30,037
通貨関連	—	19,296	—	19,296
株式関連	—	10,741	—	10,741
負債計	—	30,037	—	30,037

(*) 一部の投資信託について、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従い、投資信託の基準価額を時価とみなしており、当該投資信託については上記表に含めておりません。

②時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権	—	76,868	—	76,868
満期保有目的の債券	—	76,868	—	76,868
有価証券	1,289,562	799,920	—	2,089,482
満期保有目的の債券	225,608	166,413	—	392,022
公社債	224,804	139,970	—	364,775
国債	224,804	—	—	224,804
地方債	—	43,381	—	43,381
社債	—	96,589	—	96,589
外国証券	804	26,443	—	27,247
外国公社債	804	26,443	—	27,247
責任準備金対応債券	1,063,953	633,506	—	1,697,459
公社債	1,046,534	618,962	—	1,665,496
国債	1,037,347	—	—	1,037,347
地方債	—	141,932	—	141,932
社債	9,186	477,030	—	486,217
外国証券	17,419	14,544	—	31,963
外国公社債	17,419	14,544	—	31,963
貸付金	—	—	983,563	983,563
保険約款貸付	—	—	26,066	26,066
一般貸付	—	—	957,496	957,496
金融派生商品	—	45	—	45
金利関連	—	45	—	45
資産計	1,289,562	876,833	983,563	3,149,959
借入金	—	—	49,747	49,747
負債計	—	—	49,747	49,747

③時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

買入金銭債権

有価証券として取り扱うことが適当と認められるものは、有価証券と同様な方法によっております。

有価証券

上場株式は市場における相場価格を時価としており、活発な市場における無調整の相場価格を利用できる場合はレベル1の時価に分類しております。

債券は観察可能な取引価格等を時価としており、活発な市場における無調整の取引価格等を利用できる場合はレベル1、観察可能な取引価格等を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。取引価格等が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの割引現在価値法等により時価を算定しております。算定に当たっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、国債利回り、信用リスクのプレミアム等が含まれます。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル3の時価、そうでない場合にはレベル2の時価に分類しております。

また、投資信託は市場における相場価格又は業界団体や投資信託委託会社が公表する基準価額等を時価としており、市場における無調整の相場価格を利用できる場合はレベル1、そうでない場合にはレベル2の時価に分類しております。

貸付金

保険約款貸付は、過去の実績に基づく返済率から生成した将来キャッシュ・フローを、リスク・フリー・レートで割引いて時価を算定しております。

変動金利による一般貸付は、短期間で市場金利を反映するため、貸付先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該価額によっております。

固定金利による一般貸付は、元利金の合計額をリスク・フリー・レートに信用リスクを加味した割引率で割り引いて時価を算定しております。

また、破綻先債権、実質破綻先債権及び破綻懸念先債権については、見積将来キャッシュ・フローの現在価

値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しており、時価は当事業年度末における貸借対照表計上額から貸倒見積額を控除した金額に近似していることから、当該価額をもって時価としております。

これらの取引については、観察できないインプットを用いていることからレベル3の時価に分類しております。

借入金

元金の合計額を当該借入金の残存期間及び当社の信用リスクを加味した割引率で割り引いて時価を算定しており、当該割引率が観察不能であることからレベル3の時価に分類しております。

金融派生商品

イ. 為替予約取引は、先物為替相場等を使用しており、レベル2の時価に分類しております。

ロ. 株価指数先物取引、株式先渡取引、株価指数オプション取引、個別株式オプション取引、債券先物取引、債券オプション取引、通貨オプション取引及び金利スワップ取引については、市場における相場価格又は観察可能な市場データに基づき算定された価格等を時価としており、活発な市場における無調整の相場価格を利用できる場合はレベル1の時価、そうでない場合にはレベル2の時価に分類しております。

④時価で貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

イ. 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

区分	評価技法	重要な観察できないインプット	インプットの範囲	インプットの加重平均
買入金銭債権	割引現在価値法	割引率	1.88%～8.38%	4.19%
有価証券 (公社債)	割引現在価値法	割引率	0.66%	0.66%
有価証券 (外国証券)	割引現在価値法	割引率	0.44%～0.49%	0.46%

ロ. 期首残高から期末残高への調整表、当事業年度の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

	買入金銭債権	有価証券		合計
	その他有価証券	その他有価証券		
		公社債	外国証券	
期首残高	1,517	91	—	1,608
当事業年度の損益又は純資産の部	△5	0	23	18
損益に計上(*1)	—	—	—	—
純資産の部に計上(*2)	△5	0	23	18
購入、売却、発行及び決済の純額	712	△91	22,000	22,621
レベル3の時価への振替	—	—	—	—
レベル3の時価からの振替	—	—	—	—
期末残高	2,224	0	22,023	24,248
当事業年度の損益に計上した額のうち当事業年度末において保有する金融資産及び負債の評価損益(*1)	—	—	—	—

(*1) 損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(*2) 貸借対照表の純資産の部「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

ハ. 時価評価のプロセスの説明

時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿って時価を算定しております。算定された時価は、独立した評価部門にて、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性の運用状況について確認しており、時価の算定の方針及び手続に関する適正性が確保されております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

ニ. 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

買入金銭債権及び有価証券の時価の算定で用いている重要な観察できないインプットは、割引率であります。割引率は、国債金利と信用リスクのプレミアムから構成されます。一般に、割引率の著しい上昇（低下）は、時価の著しい下落（上昇）を生じさせます。

- (4) 一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従い、投資信託の基準価額を時価とみなす投資信託
 一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従い、投資信託の基準価額を時価とみなす一部の投資信託については、「(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項」の開示を行っておりません。当該投資信託の貸借対照表における金額は金融資産497,512百万円であります。

①投資信託財産が金融商品である投資信託の期首残高から期末残高への調整表

(単位：百万円)

	その他有価証券
	外国その他の証券
期首残高	352,664
当事業年度の損益又は純資産の部	73,155
損益に計上(*1)	40,402
純資産の部に計上(*2)	32,753
購入、売却及び償還の純額	32,239
当事業年度に投資信託の基準価額を時価と見なすこととした額	—
当事業年度に投資信託の基準価額を時価と見なさないこととした額	—
期末残高	458,060
当事業年度の損益に計上した額のうち当事業年度末において保有する投資信託の評価損益(*1)	2,303

(*1) 損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(*2) 貸借対照表の純資産の部「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

②当事業年度末における投資信託財産が金融商品である投資信託の解約又は買戻し請求に関する制限の内容ごとの内訳

(単位：百万円)

	その他有価証券
	外国その他の証券
解約又は買戻し請求の申込可能日の頻度等に制限があるもの	424,529
上記以外	33,530
合計	458,060

③投資信託財産が不動産である投資信託の期首残高から期末残高への調整表

(単位：百万円)

	その他有価証券
	その他の証券
期首残高	37,552
当事業年度の損益又は純資産の部	563
損益に計上(*1)	—
純資産の部に計上(*2)	563
購入、売却及び償還の純額	1,336
当事業年度に投資信託の基準価額を時価と見なすこととした額	—
当事業年度に投資信託の基準価額を時価と見なさないこととした額	—
期末残高	39,452
当事業年度の損益に計上した額のうち当事業年度末において保有する投資信託の評価損益(*1)	—

(*1) 損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(*2) 貸借対照表の純資産の部「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

21. 賃貸等不動産の状況に関する事項及び賃貸等不動産の時価に関する事項
 当社は、全国主要都市を中心に、主に賃貸用のオフィスビルを所有しており、当事業年度末における当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額は147,972百万円、時価は205,410百万円であります。
 なお、時価の算定にあたっては、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については公示価格等に基づいて自社で算定した金額によっております。
22. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の貸借対照表価額は、1,155,601百万円であります。
23. 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸付条件緩和債権の額は、829百万円であり、それぞれの内訳は次のとおりであります。
 (1) 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は97百万円であります。
 上記取立不能見込額の直接減額は、0百万円であります。
 なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
 (2) 債権のうち、危険債権額は4百万円であります。
 なお、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。
 (3) 債権のうち、三月以上延滞債権額は707百万円であります。
 なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払いが、約定支払日の翌日を起算日として三月以上延滞している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。
 (4) 債権のうち、貸付条件緩和債権額は20百万円であります。
 なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権に該当しないものであります。
24. 有形固定資産の減価償却累計額は127,687百万円であります。
25. 保険業法第118条第1項に規定する特別勘定の資産の額は、203百万円であります。なお、負債の額も同額であります。
26. 関係会社に対する金銭債権の総額は53,300百万円、金銭債務の総額は52,844百万円であります。
27. 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。
- | | |
|----------------|-----------|
| 当期首現在高 | 22,052百万円 |
| 当事業年度契約者配当金支払額 | 12,818百万円 |
| 利息による増加等 | 1百万円 |
| 契約者配当準備金繰入額 | 13,606百万円 |
| 当期末現在高 | 22,841百万円 |
28. 保険業法第91条の規定による組織変更剰余金額は、63,158百万円であります。
29. 担保として供している資産の額は、有価証券（国債）1,212,371百万円及び有価証券（外国証券）192,458百万円あります。
 また、担保付債務の額は、債券貸借取引受入担保金706,530百万円あります。
 なお、上記有価証券（国債）には、現金担保付債券貸借取引により差し入れた有価証券522,121百万円及び無担保債券貸借取引により差し入れた有価証券441,021百万円を含んでおります。また、上記有価証券（外国証券）には、現金担保付債券貸借取引により差し入れた有価証券172,202百万円及び有価証券担保付債券貸借取引により差し入れた有価証券20,256百万円を含んでおります。
30. 貸付金に係るコミットメント契約の総額は1,961百万円であり、融資未実行残高は1,952百万円であります。
31. 借入金は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金であります。
32. 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下「出再支払備金」という。）の金額は746百万円であり、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下「出再責任準備金」という。）の金額は448,816百万円であります。
33. 退職給付債務に関する事項は次のとおりであります。
 (1) 採用している退職給付制度の概要
 当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

(2) 確定給付制度

①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	52,981百万円
勤務費用	1,941百万円
利息費用	364百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△6,192百万円
退職給付の支払額	<u>△2,031百万円</u>
期末における退職給付債務	<u>47,062百万円</u>

②年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	35,970百万円
期待運用収益	726百万円
数理計算上の差異の当期発生額	1,825百万円
事業主からの拠出額	1,702百万円
退職給付の支払額	<u>△987百万円</u>
期末における年金資産	<u>39,238百万円</u>

③退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	28,501百万円
年金資産	<u>△39,238百万円</u>
	△10,736百万円
非積立型制度の退職給付債務	<u>18,560百万円</u>
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>7,823百万円</u>

退職給付引当金	18,560百万円
前払年金費用	<u>△10,736百万円</u>
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>7,823百万円</u>

④退職給付に関連する損益

勤務費用	1,941百万円
利息費用	364百万円
期待運用収益	△726百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	<u>△8,018百万円</u>
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>△6,439百万円</u>

⑤年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

生命保険一般勘定	38.1%
債券	24.7%
外国証券	20.8%
株式	9.4%
不動産	4.5%
共同運用資産	<u>2.4%</u>
合計	100.0%

⑥長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予測される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

⑦数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。

割引率	一時金 1.3%、年金 1.8%
長期期待運用収益率	2.02%

34. 関係会社の株式は、6,871百万円であります。

35. 繰延税金資産の総額は、81,338百万円、繰延税金負債の総額は、100,765百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、5,406百万円であります。

繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、価格変動準備金38,577百万円、保険契約準備金23,226百万円及び退職給付引当金5,196百万円であります。また、繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、その他有価証券評価差額金94,944百万円であります。

当事業年度における法定実効税率は28.0%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率18.2%と

の差異の主要な内訳は、売却等による土地再評価差額金の取崩し△9.0%であります。

株式会社T&Dホールディングスを通算親会社として、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

36. 1株当たりの純資産額は、167,688円75銭であります。

6. 損益計算書

(単位：百万円)

科目	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
経常収益	961,343	989,290
保険料等収入	643,308	702,821
保険料	551,268	617,655
再保険収入	92,040	85,166
資産運用収益	214,741	233,094
利息及び配当金等収入	160,817	147,589
預貯金利息	1	0
有価証券利息・配当金	135,831	121,385
貸付金利息	9,679	10,341
不動産賃貸料	10,752	10,568
その他利息配当金	4,552	5,294
有価証券売却益	46,241	72,920
有価証券償還益	369	—
為替差益	6,932	12,370
貸倒引当金戻入額	240	—
その他運用収益	140	170
特別勘定資産運用益	—	43
その他経常収益	103,292	53,374
年金特約取扱受入金	135	118
保険金据置受入金	17,194	10,808
責任準備金戻入額	83,950	31,433
退職給付引当金戻入額	—	9,187
その他の経常収益	2,013	1,826
経常費用	913,198	933,976
保険金等支払金	726,570	692,392
保険金	195,100	98,904
年金	235,562	245,113
給付金	108,073	86,972
解約返戻金	92,314	199,850
その他返戻金	94,812	60,942
再保険料	706	608
責任準備金等繰入額	255	917
支払備金繰入額	254	916
契約者配当金積立利息繰入額	1	1
資産運用費用	71,514	124,570
支払利息	1,011	726
有価証券売却損	15,614	46,052
有価証券評価損	1,437	3,820
金融派生商品費用	46,197	65,291
貸倒引当金繰入額	—	42
賃貸用不動産等減価償却費	3,664	3,682
その他運用費用	3,585	4,953
特別勘定資産運用損	4	—
事業費	88,495	90,562
その他経常費用	26,361	25,533
保険金据置支払金	10,132	10,077
税金	7,711	7,690
減価償却費	6,248	5,526
退職給付引当金繰入額	24	—
その他の経常費用	2,244	2,238
経常利益	48,144	55,314

(単位：百万円)

科目	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
	特別利益	1,271
固定資産等処分益	1,271	9,800
その他特別利益	—	5
特別損失	4,026	3,871
固定資産等処分損	195	442
減損損失	87	303
価格変動準備金繰入額	3,295	3,124
関係会社株式評価損	447	—
契約者配当準備金繰入額	10,847	13,606
税引前当期純利益	34,542	47,642
法人税及び住民税	6,011	7,016
法人税等調整額	1,699	1,641
法人税等合計	7,710	8,658
当期純利益	26,832	38,983

(損益計算書注記)

- 1株当たり当期純利益の金額は、15,593円43銭であります。
- 関係会社との取引による収益の総額は3,283百万円、費用の総額は5,536百万円であります。
- 有価証券売却益の主な内訳は、国債等債券506百万円、株式等28,071百万円、外国証券44,341百万円であります。
- 有価証券売却損の主な内訳は、国債等債券4,179百万円、外国証券41,872百万円であります。
- 有価証券評価損の主な内訳は、国債等債券513百万円、外国証券3,306百万円であります。
- 金融派生商品費用には、評価益が2,375百万円含まれております。
- 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金繰入額の金額は414百万円、責任準備金戻入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金戻入額の金額は、62,333百万円であります。
- 当事業年度における固定資産の減損損失に関する事項は、次のとおりであります。
 - (1) 資産をグルーピングした方法
保険営業等の用に供している不動産等について、保険営業等全体で1つの資産（営業用資産）グループとし、それ以外の賃貸不動産等及び遊休不動産等について、それぞれの物件ごとに1つの資産（投資用資産）グループとしております。
 - (2) 減損損失の認識に至った経緯
一部の資産グループについて、市場価格の著しい下落や、賃料水準の低迷等による収益性の低下が見られたことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。
 - (3) 減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳

(単位：百万円)

用途	種類	場所等	減損損失		
			土地	建物等	計
遊休不動産等	土地及び建物	石川県金沢市 など2件	218	84	303

- (4) 回収可能価額の算定方法
回収可能価額は、正味売却価額を適用しております。
なお、正味売却価額は原則として、不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額から処分費用見込額を差し引いて算定しております。

7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

区 分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
基礎利益 A	21,294	40,761
キャピタル収益	97,842	139,192
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	46,241	72,920
金融派生商品収益	—	—
為替差益	6,932	12,370
その他キャピタル収益	44,668	53,901
キャピタル費用	69,878	124,581
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	15,614	46,052
有価証券評価損	1,437	3,820
金融派生商品費用	46,197	65,291
為替差損	—	—
その他キャピタル費用	6,628	9,416
キャピタル損益 B	27,964	14,610
キャピタル損益含み基礎利益 A + B	49,259	55,372
臨時収益	35	—
再保険収入	—	—
危険準備金戻入額	—	—
個別貸倒引当金戻入額	35	—
その他臨時収益	—	—
臨時費用	1,149	57
再保険料	—	—
危険準備金繰入額	1,149	—
個別貸倒引当金繰入額	—	57
特定海外債権引当勘定繰入額	—	—
貸付金償却	—	—
その他臨時費用	—	—
臨時損益 C	△1,114	△57
経常利益 A + B + C	48,144	55,314

(参考) その他項目の内訳

(単位：百万円)

区 分		前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
基礎利益	外貨建保険契約に係る市場為替 レート変動の影響額	6,628	9,416
	投資信託の解約損益	△5,946	△3
	有価証券償還損益のうち市場為 替レート変動に伴う損益	△3,388	△681
	為替に係るヘッジコスト	△35,333	△53,216
その他キャピタル収益	外貨建保険契約に係る市場為替 レート変動の影響額	—	—
	投資信託の解約損益	5,946	3
	有価証券償還損益のうち市場為 替レート変動に伴う損益	3,388	681
	為替に係るヘッジコスト	35,333	53,216
その他キャピタル費用	外貨建保険契約に係る市場為替 レート変動の影響額	6,628	9,416
	投資信託の解約損益	—	—
	有価証券償還損益のうち市場為 替レート変動に伴う損益	—	—
	為替に係るヘッジコスト	—	—

(参考) 基礎利益明細表

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当事業年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
基礎収益	915,912	913,432
保険料等収入	643,308	702,821
保険料	551,268	617,655
再保険収入	92,040	85,166
資産運用収益	161,532	147,819
利息及び配当金等収入	160,817	147,589
有価証券償還益	369	—
一般貸倒引当金戻入額	204	15
その他運用収益	140	170
特別勘定資産運用益	—	43
その他経常収益	104,442	53,374
年金特約取扱受入金	135	118
保険金据置受入金	17,194	10,808
支払備金戻入額	—	—
責任準備金戻入額	85,100	31,433
退職給付引当金戻入額	—	9,187
その他の経常収益	2,013	1,826
その他基礎収益	6,628	9,416
基礎費用	894,617	872,670
保険金等支払金	726,570	692,392
保険金	195,100	98,904
年金	235,562	245,113
給付金	108,073	86,972
解約返戻金	92,314	199,850
その他返戻金	94,812	60,942
再保険料	706	608
責任準備金等繰入額	255	917
資産運用費用	8,265	9,362
支払利息	1,011	726
一般貸倒引当金繰入額	—	—
賃貸用不動産等減価償却費	3,664	3,682
その他運用費用	3,585	4,953
特別勘定資産運用損	4	—
事業費	88,495	90,562
その他経常費用	26,361	25,533
保険金据置支払金	10,132	10,077
税金	7,711	7,690
減価償却費	6,248	5,526
退職給付引当金繰入額	24	—
その他の経常費用	2,244	2,238
その他基礎費用	44,668	53,901
基礎利益	21,294	40,761

(参考) 順ざや・逆ざやの状況

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
順ざや額・逆ざや額 (正值の場合は順ざや額)	42,037	19,513
基礎利益上の運用収支等の利回り	1.87%	1.47%
平均予定利率	1.15%	1.13%
うち個人保険・個人年金保険	1.14%	1.12%
一般勘定責任準備金	5,811,584	5,754,090

- (注) 1. 順ざや額・逆ざや額 (正值の場合は順ざや額) の算式：

$$\frac{\text{基礎利益上の運用収支等の利回り}}{\text{平均予定利率}} \times \text{一般勘定責任準備金}$$
※数値は当事業年度
2. 「基礎利益上の運用収支等の利回り」は、分子を基礎利益に含まれる運用収支 (一般勘定分の資産運用損益) から契約者配当金積立利息繰入額を控除したものとし、分母を「一般勘定責任準備金」として算出しています。
3. 「平均予定利率」は、分子を予定利息 (一般勘定のみ) とし、分母を「一般勘定責任準備金」として算出しています。
4. 「一般勘定責任準備金」は、危険準備金を除く一般勘定の責任準備金について、以下のハーディー方式により算出した経過責任準備金です。
 ハーディー方式：(期始責任準備金+期末責任準備金-予定利息)×(1/2)

8. 株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本						株主資本 合計
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計	
			その他利益剰余金				
			不動産圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	62,500	62,500	431	60,000	1,493	61,925	186,925
当期変動額							
不動産圧縮積立金の取崩			△15		15	—	—
別途積立金の取崩				△60,000	60,000	—	—
剰余金の配当					△9,152	△9,152	△9,152
当期純利益					26,832	26,832	26,832
土地再評価差額金の取崩					△805	△805	△805
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	—	—	△15	△60,000	76,889	16,874	16,874
当期末残高	62,500	62,500	416	—	78,383	78,799	203,799

	評価・換算差額等				純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	192,129	△2,527	△35,062	154,538	341,464
当期変動額					
不動産圧縮積立金の取崩					—
別途積立金の取崩					—
剰余金の配当					△9,152
当期純利益					26,832
土地再評価差額金の取崩					△805
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△113,018	153	805	△112,059	△112,059
当期変動額合計	△113,018	153	805	△112,059	△95,185
当期末残高	79,110	△2,374	△34,256	42,479	246,278

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
					不動産圧縮 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	62,500	62,500	—	62,500	416	78,383	78,799	203,799
当期変動額								
準備金から剰余金への振替		△62,500	62,500	—				—
不動産圧縮積立金の取崩					△15	15	—	—
剰余金の配当						△40,270	△40,270	△40,270
当期純利益						38,983	38,983	38,983
土地再評価差額金の取崩						△14,846	△14,846	△14,846
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)								
当期変動額合計	—	△62,500	62,500	—	△15	△16,117	△16,132	△16,132
当期末残高	62,500	—	62,500	62,500	400	62,266	62,667	187,667

	評価・換算差額等				純資産 合計
	其他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	79,110	△2,374	△34,256	42,479	246,278
当期変動額					
準備金から剰余金への振替					—
不動産圧縮積立金の取崩					—
剰余金の配当					△40,270
当期純利益					38,983
土地再評価差額金の取崩					△14,846
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	174,076	153	14,846	189,075	189,075
当期変動額合計	174,076	153	14,846	189,075	172,943
当期末残高	253,187	△2,221	△19,410	231,554	419,221

(株主資本等変動計算書注記)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（千株）	当事業年度 増加株式数（千株）	当事業年度 減少株式数（千株）	当事業年度末 株式数（千株）
発行済株式 普通株式	2,500	—	—	2,500

2. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	40,270百万円	16,108円	2023年6月23日	2023年6月26日

9. 保険業法に基づく債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	101	97
危険債権	14	4
三月以上延滞債権	891	707
貸付条件緩和債権	20	20
小 計 (対合計比)	1,028 (0.04)	829 (0.04)
正常債権	2,401,038	2,148,525
合 計	2,402,066	2,149,355

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。(注1に掲げる債権を除く。)
3. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸付金です。(注1及び2に掲げる債権を除く。)
4. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金です。(注1から3に掲げる債権を除く。)
5. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から4までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

(参考) 貸倒引当金等の状況

(1) 貸倒引当金残高の内訳

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
一般貸倒引当金	1,378	1,362
個別貸倒引当金	100	158
特定海外債権引当勘定	—	—
合 計	1,478	1,520

(2) 個別貸倒引当金

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
繰入額	100	158
取崩額	136	100
純繰入額	△ 35	57

(注) 上記取崩額については、目的使用によるものを除いています。

(3) 特定海外債権引当勘定

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

(4) 貸付金償却

当社は、前事業年度・当事業年度とも該当はありません。

(参考) 貸付金等の自己査定状況

資産の自己査定とは、保有資産を個別に検討し、回収の危険性又は価値の毀損の危険性の度合いに従って区分することであり、適正な償却・引当を実施し正確な財務諸表を作成するための基礎となるものです。

回収の危険性又は価値の毀損の危険性の度合いに応じて、資産をⅠ～Ⅳ分類の4段階に判定します。なお、Ⅰ分類は問題のない資産です。

当社では、自己査定及び償却・引当に関する社内基準を定め、厳格な自己査定、償却・引当を行っています。

回収不可能と査定したⅣ分類資産については、すべて直接減額を実施し、Ⅲ分類資産については個別に予想損失額を算定し、十分な引当を行うなど健全な資産の確保に努めています。

【貸付金等の自己査定結果】

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	償却・引当前	償却・引当後	償却・引当前	償却・引当後
Ⅰ分類	2,396,541	2,396,541	2,141,397	2,141,397
Ⅱ分類	5,525	5,525	7,957	7,957
Ⅲ分類	0	0	0	0
Ⅳ分類	0	—	0	—
貸付金等残高計	2,402,067	2,402,066	2,149,355	2,149,355

(注) 上記の貸付金等残高計には、貸付金その他、貸付有価証券、支払承諾見返、未収利息、仮払金を含んでいます。

なお、未収利息及び仮払金については貸付金及び貸付有価証券に係るものを対象としています。

10. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項 目	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
ソルベンシー・マージン総額 (A)	575,945	803,146
資本金等	163,529	158,529
価格変動準備金	134,651	137,775
危険準備金	68,475	68,475
一般貸倒引当金	1,378	1,362
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	93,015	310,541
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	31,356	47,631
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	17,174	16,794
配当準備金中の未割当額	1,380	1,263
税効果相当額	14,983	10,773
負債性資本調達手段等	50,000	50,000
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)	198,288	224,249
保険リスク相当額 R ₁	12,290	11,597
第三分野保険の保険リスク相当額 R ₈	11,211	10,931
予定利率リスク相当額 R ₂	9,782	9,713
最低保証リスク相当額 R ₇	9	8
資産運用リスク相当額 R ₃	182,747	208,551
経営管理リスク相当額 R ₄	4,320	4,816
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	580.9%	716.2%

(注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。
2. 最低保証リスク相当額は、標準的方式を用いて算出しています。

11. 特別勘定の状況

(1) 特別勘定資産残高の状況

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
	金 額	金 額
個人変額保険	169	203
個人変額年金保険	—	—
団体年金保険	—	—
特別勘定計	169	203

(2) 個人変額保険（特別勘定）の状況

①保有契約高

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	件 数	金 額	件 数	金 額
変額保険（有期型）	—	—	—	—
変額保険（終身型）	401	766	384	747
合 計	401	766	384	747

②個人変額保険特別勘定資産の内訳

(単位：百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・コールローン	6	4.1	6	3.2
有価証券	161	95.4	196	96.4
公社債	—	—	—	—
株式	—	—	—	—
外国証券	—	—	—	—
公社債	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—
その他の証券	161	95.4	196	96.4
貸付金	—	—	—	—
その他	0	0.5	0	0.4
貸倒引当金	—	—	—	—
合 計	169	100.0	203	100.0

③個人変額保険特別勘定の運用収支状況

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
	金 額	金 額
利息配当金等収入	12	14
有価証券売却益	—	—
有価証券償還益	—	—
有価証券評価益	46	77
為替差益	—	—
金融派生商品収益	—	—
その他の収益	—	—
有価証券売却損	0	0
有価証券償還損	—	—
有価証券評価損	64	47
為替差損	—	—
金融派生商品費用	—	—
その他の費用	—	—
収 支 差 額	△ 4	43

④売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	貸借対照表計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
売買目的有価証券	161	△ 17	196	29

⑤金銭の信託の時価情報

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

⑥デリバティブ取引の時価情報

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

(3) 個人変額年金保険（特別勘定）の状況

当社は、前事業年度末・当事業年度末とも残高はありません。

12. 保険会社及びその子会社等の状況

(1) 主要な業務の状況を示す指標

(単位：百万円)

項目	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
経常収益	982,595	1,010,469
経常利益	48,826	54,131
親会社株主に帰属する当期純利益	27,211	37,513
包括利益	△85,711	211,775

(単位：百万円)

項目	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
総資産	7,413,357	7,363,111
連結ソルベンシー・マージン比率	587.5%	721.2%

(2) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結される子会社及び子法人等数	5社
持分法適用の非連結の子会社及び子法人等数	0社
持分法適用の関連法人等数	3社

(3) 連結財務諸表

① 連結財務諸表の作成方針

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結される子会社及び子法人等数 5社
 会社名 T&Dコンファーム株式会社、東陽保険代行株式会社、太陽信用保証株式会社、T&Dリース株式会社、株式会社太陽生命少子高齢社会研究所
 第2四半期連結会計期間より、T&Dカスタマーサービス株式会社は清算終了により連結の範囲から除外しております。

- (2) 主要な非連結の子会社及び子法人等 0社

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の非連結の子会社及び子法人等 0社
 (2) 持分法適用の関連法人等数 3社

会社名 T&D情報システム株式会社、Thuriya Ace Technology Company Limited、
 Capital Taiyo Life Insurance Limited

- (3) 持分法非適用の非連結子会社・子法人等及び関連法人等 0社

- (4) 持分法適用会社のうち、一部の会社については、その他の基準日に実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

②連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
(資産の部)		
現金及び預貯金	571,808	544,880
買入金銭債権	113,753	113,984
有価証券	5,262,257	5,358,525
貸付金	1,047,975	968,816
有形固定資産	229,426	223,257
土地	132,425	127,594
建物	90,678	88,412
建設仮勘定	4,258	5,039
その他の有形固定資産	2,063	2,211
無形固定資産	10,412	11,050
ソフトウェア	9,965	10,607
その他の無形固定資産	447	443
再保険貸	19,829	18,137
その他資産	112,932	115,625
退職給付に係る資産	2,744	10,736
繰延税金資産	44,127	41
貸倒引当金	△1,911	△1,947
資産の部合計	7,413,357	7,363,111
(負債の部)		
保険契約準備金	5,915,649	5,885,922
支払備金	22,630	23,547
責任準備金	5,870,966	5,839,533
契約者配当準備金	22,052	22,841
再保険借	167	130
短期社債	5,999	7,994
債券貸借取引受入担保金	917,899	706,530
その他負債	162,057	152,645
役員賞与引当金	151	111
退職給付に係る負債	19,902	18,714
役員退職慰労引当金	34	11
価格変動準備金	134,651	137,775
繰延税金負債	8	25,097
再評価に係る繰延税金負債	4,456	4,356
負債の部合計	7,160,979	6,939,292
(純資産の部)		
資本金	62,500	62,500
資本剰余金	62,574	62,574
利益剰余金	84,719	67,117
株主資本合計	209,794	192,191
その他有価証券評価差額金	79,212	253,289
繰延ヘッジ損益	△2,374	△2,221
土地再評価差額金	△34,256	△19,410
為替換算調整勘定	△65	△30
その他の包括利益累計額合計	42,515	231,626
非支配株主持分	67	—
純資産の部合計	252,377	423,818
負債及び純資産の部合計	7,413,357	7,363,111

(連結貸借対照表注記)

1. 有価証券（現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む。）の評価は、売買目的有価証券については時価法（売却原価の算定は移動平均法）、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式（保険業法第2条第12項に規定する子会社及び保険業法施行令第13条の5の2第3項に規定する子法人等のうち子会社を除いたもの及び関連法人等が発行する株式をいう。）については原価法、その他有価証券については、3月末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法、取得差額が金利調整差額と認められる公社債（外国債券を含む。）については移動平均法による償却原価法（定額法）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法）によっております。

また、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

2. 責任準備金対応債券のリスク管理方針

アセットミックスによりポートフォリオ全体のリスク減殺効果を図り、負債コストを中長期的に上回ることを目指したバランス型ALMに基づく運用方針をたて、管理しております。

このような運用方針を踏まえ、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づいて、以下の保険契約を特定し小区分としております。

- ・一般資産区分については、団体保険商品区分、その他の商品区分、無配当通貨指定型一時払個人年金保険及び無配当通貨指定型生存給付金付特別養老保険等を除くすべての保険契約
- ・一般資産区分における無配当通貨指定型一時払個人年金保険及び無配当通貨指定型生存給付金付特別養老保険については、通貨別にすべての保険契約
- ・団体年金保険資産区分については、すべての拠出型企業年金保険契約
- ・利率変動型一時払保険資産区分については、すべての保険契約

(追加情報)

団体年金保険資産区分については、従来、すべての拠出型企業年金保険契約及びすべての団体生存保険契約を対象としておりましたが、このうち団体生存保険契約は、当該小区分における責任準備金残高の減少及びデュレーションが短期化したことにより、責任準備金対応債券を用いたリスク管理の意義が薄れていることから、当連結会計年度より小区分から除くこととしております。なお、この変更による連結貸借対照表及び連結損益計算書への影響はありません。

3. デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。

4. 当社は、「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

- ・再評価を行った年月日 2002年3月31日
- ・同法律第3条第3項に定める再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第1号に定める標準地の公示価格、同条第2号に定める基準地の標準価格及び同条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価ほかに基づき、合理的な調整を行って算定しております。

5. 有形固定資産（リース資産を除く。）の減価償却は、主として定率法により、1998年4月1日以降に取得した建物（2016年3月31日以前に取得した建物附属設備及び構築物を除く。）については定額法により行っております。

リース資産の減価償却は、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とする定額法により行っております。

6. 外貨建資産・負債（在外子会社等は除く。）は、3月末日の直物為替相場により円換算しております。

なお、在外子会社等の資産、負債、収益及び費用は、在外子会社等の仮決算日の直物為替相場により円換算しております。

7. 当社の貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者（以下「実質破綻先」という。）に対する債権については、下記直接減額後の債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。ま

た、現状では経営破綻の状況にはないものの、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等を債権額に乗じた額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は206百万円であります。

子会社の資産のうち貸付金等については、当社と同等の基準に基づき資産査定を実施し、その査定結果に基づいて上記に準じた引当を行っております。

8. 役員賞与引当金は、役員の賞与の支払いに備えるため、当連結会計年度末における支給見込額を計上しております。

9. 退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。

退職給付に係る会計処理の方法は以下のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準
数理計算上の差異の処理年数	発生年度に全額を費用処理
過去勤務費用の処理年数	発生年度に全額を費用処理

10. 役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金の支払いに備えるため、一部の連結子会社の内規に基づき当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

11. 当社の価格変動準備金は、価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

12. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

当社のヘッジ会計の方法は、繰延ヘッジ処理及び時価ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理及び振当処理の要件を満たしている通貨スワップについては振当処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)
金利スワップ	貸付金、債券
通貨スワップ	外貨建貸付金
為替予約、通貨オプション オプション	外貨建資産
信用取引	国内・外国株式、国内・外国上場投資信託、国内債券
先渡取引	国内・外国株式、国内・外国上場投資信託

(3) ヘッジ方針

資産運用に係るリスク管理の方針を踏まえた社内規程等に基づき、ヘッジ対象に係るキャッシュ・フロー変動リスク及び価格変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較する比率分析等の方法により、半期ごとにヘッジの有効性を評価しております。ただし、特例処理等によっている金利スワップ、振当処理によっている通貨スワップ、ヘッジ対象資産とヘッジ手段が同一通貨の為替予約及び通貨オプション、国内・外国株式及び国内・外国上場投資信託をヘッジ対象とするオプション、信用取引及び先渡取引、国内債券をヘッジ対象とするオプションについては、有効性の評価を省略しております。

（「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」を適用しているヘッジ関係）

上記のヘッジ関係のうち、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」（実務対応報告第40号 2022年3月17日）の適用範囲に含まれるヘッジ関係のすべてに、当該実務対応報告に定められる特例的な取扱いを適用しております。当該実務対応報告を適用しているヘッジ関係の内容は、以下のとおりです。

- ・ヘッジ会計の方法 金利スワップの特例処理
- ・ヘッジ手段 金利スワップ取引

・ヘッジ対象	貸付金
・ヘッジ取引の種類	キャッシュ・フローを固定するもの

13. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、その他資産の中の前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、当連結会計年度に費用処理しております。

14. 責任準備金

当社は当連結会計年度末時点において、保険契約上の責任が開始している契約について、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、保険業法第116条第1項に基づき、保険料及び責任準備金の算出方法書（保険業法第4条第2項第4号）に記載された方法に従って計算し、責任準備金を積み立てております。

責任準備金のうち保険料積立金については、次の方式により計算しております。

- (1) 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）
- (2) 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式

なお、責任準備金については、保険業法第121条第1項及び保険業法施行規則第80条に基づき、毎決算期において責任準備金が適正に積み立てられているかどうかを、保険計理人が確認しております。

責任準備金のうち危険準備金については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第3号に基づき、保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて積み立てております。

15. 保険料等収入

当社の保険料等収入（再保険収入を除く。）は、原則として、収納があり、保険契約上の責任が開始しているものについて、当該収納した金額により計上しております。

なお、収納した保険料のうち、当連結会計年度末時点において未経過となっている期間に対応する部分については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第2号に基づき、責任準備金に積み立てております。

16. 再保険収入

当社の再保険収入は、再保険協約に基づき計上しております。

なお、当該再保険に付した部分に相当する責任準備金及び支払備金は、保険業法施行規則第71条第1項及び同規則第73条第3項に基づき不積立としております。

17. 保険金等支払金・支払備金

当社の保険金等支払金（再保険料を除く。）は、保険約款に基づく支払事由が発生し、当該約款に基づいて算定された金額を支払った契約について、当該金額により計上しております。

なお、保険業法第117条及び保険業法施行規則第72条に基づき、当連結会計年度末時点において支払義務が発生したもの、又は、まだ支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められるもの（以下「既発生未報告支払備金」という。）のうち、それぞれ保険金等の支出として計上していないものについて、支払備金を積み立てております。

既発生未報告支払備金については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設又は自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下「みなし入院」という。）等に入院給付金等を支払う特別取扱を2023年5月8日以降終了したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しております。

（計算方法の概要）

IBNR告示第1条第1項本則に掲げる全ての連結会計年度の既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額から、みなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しております。

なお、前連結会計年度末においては、当該みなし入院に係る額の代わりに、重症化リスクの高い方以外のみなし入院に係る額を除外しておりましたが、当連結会計年度にみなし入院の入院給付金の取扱いを終了したことにより、当該みなし入院に係る額を除外して算出する方法に見直しております。

18. 無形固定資産（リース資産を除く。）に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間に基づく定額法により行っております。

リース資産の減価償却は、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とする定額法により行っております。

19. 収益認識

売上高にかわる経常収益の内訳は、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）第3項により同会計基準適用対象外となる保険料等収入及び資産運用収益が大半であり、顧客との契約から生じる収益は

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

20. 表示方法の変更

前連結会計年度において、「その他特別損失」に含めていた「補助金事業支出」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」の「その他特別損失」に表示していた151百万円は「補助金事業支出」151百万円として組替えております。

21. 重要な会計上の見積り

(1) 責任準備金

①当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

責任準備金	5,839,533百万円
責任準備金戻入額	31,433百万円

②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

イ. 算出方法

「連結貸借対照表注記-14」に記載のとおりであります。

ロ. 主要な仮定及び翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響等

保険料及び責任準備金の算出方法書に記載された計算前提（予定発生率・予定利率等の基礎率）が、直近の実績と大きく乖離することにより、将来の債務履行に支障を来すおそれがあると認められる場合には、保険業法施行規則第69条第5項に基づき、追加の責任準備金を計上する必要があります。

(2) 退職給付に関する会計処理

①当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

退職給付に係る資産	10,736百万円
退職給付に係る負債	18,714百万円

②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

イ. 算出方法

退職給付債務及び退職給付費用は、将来の退職給付債務算出に用いる数理計算上の前提条件や年金資産の長期期待運用収益率等に基づいて算出しております。

なお、退職給付見込額の期間帰属方法については、「連結貸借対照表注記-9」に記載のとおりであります。

ロ. 主要な仮定及び翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響等

数理計算上の計算基礎に関する事項は、「連結貸借対照表注記-34」に記載のとおりであり、主要な仮定である割引率や長期期待運用収益率等が変動した場合、退職給付に係る資産・負債に重要な影響を与える可能性があります。

(3) 固定資産の減損

①当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

減損損失	303百万円
------	--------

②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

イ. 算出方法

資産のグルーピング方法については、「連結損益計算書注記-2-(1)」に記載のとおりであります。

減損の兆候がある資産グループについては、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合に減損損失を認識し、帳簿価額から回収可能価額（割引後の将来キャッシュ・フローと正味売却価額のいずれか大きい方）を控除した額を損失として計上しております。

ロ. 主要な仮定及び翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響等

減損の認識の判定に用いる割引前将来キャッシュ・フローの主要な仮定は、営業用資産については、中期計画等に基づく保険営業活動から生じる損益を使用しており、投資用資産については、物件ごとの過去実績及び今後の収支見込みに基づき算出しております。

主要な仮定である保険営業活動から生じる損益や収支見込みが悪化し、割引前将来キャッシュ・フローが変動した場合、減損損失を計上する可能性があります。

22. 金融商品関係

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当社は、生命保険事業を主たる事業として各種生命保険の引受けを行っており、保険料として収受した金銭等を有価証券、貸付金等の金融資産にて運用しております。

資産運用に際しては、ご契約者の信頼を第一に考え、資本・収益・リスクを一体的に管理するERM（エンタープライズ・リスク・マネジメント）の下で、長期に安定した収益を確保できるポートフォリオを構築し、健全性や公共性に配慮しながら取り組むことを基本方針としております。

この考え方に従い、安定した利息収入の確保に向けて国内公社債や貸付金等の円金利資産を中心に投資するとともに、厳格なリスク管理のもと、株式や外国証券にも一部投資を行っております。

なお、デリバティブ取引は、金融資産の運用に際して生じる価格変動リスク等をヘッジする目的で利用することを基本としております。

また、より一層財務内容の健全性を向上させることを目的として、劣後性資金（社債、借入金）の調達を行っております。

②金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融資産は、主として有価証券及び貸付金であります。

有価証券の種類は、国内外の公社債、株式、投資信託等であり、安定的な収益確保に加え、市場見通しに基づく運用や長期保有による運用収益の獲得等を目的に保有しており、これらは、発行体の信用リスク、金利、為替、株式等の相場変動による市場リスク及び流動性リスクに晒されております。

貸付金には、保険契約者に対する保険約款貸付のほか、当該保険約款貸付以外の貸付で主に国内の企業や個人向けの一般貸付があります。一般貸付は、安定的な収益確保を目的に実施しておりますが、貸付先の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。なお、保険約款貸付は、解約返戻金の範囲内で行っており、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引は、主に金融資産の価格変動リスク等をヘッジする目的で株価指数先物取引、株式先渡取引、為替予約取引、金利スワップ取引等を行っており、投機的な取引は行っておりません。

デリバティブ取引には、現物資産と同様に市場リスクや信用リスクが存在しておりますが、取組みにあたっては、取引内容、ヘッジ対象、取引枠等の許容範囲を明確にすることにより、リスク管理の徹底を図っております。

なお、ヘッジとして取り組むデリバティブ取引に対するヘッジ会計の適用については、適用要件、対象取引、有効性の評価方法及び指定方法を社内規程に明確に定め、貸付金に係る金利スワップ、外貨建資産に係る為替予約取引及び通貨スワップ・通貨オプション、国内・外国株式、国内・外国上場投資信託に係る先渡取引及びオプション、円建債券に係るオプション等を適用対象として適正に行っております。ヘッジの有効性の判定は、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを比較する比率分析の方法によっております。ただし、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件が同一であり、ヘッジに高い有効性がある場合には、ヘッジの有効性の判定を省略しております。

③金融商品に係るリスク管理体制

イ. 全般的なリスク管理体制

当社では、生命保険事業の社会公共性等に鑑み、経営の健全性及び適切性を確保するため、リスクを的確に把握し管理していくことを経営の重要課題のひとつとして位置づけ、取締役会がリスク管理の基本的な考え方を定めた「リスク管理基本方針」を策定し、それに基づきリスク管理体制を整備しております。

組織面では、リスク管理に関する一元的な体制の確立及びリスク管理の徹底を期することを目的として、リスク統括委員会等を設置するとともに、各リスクを適切に管理するため、資産運用部門の投融资執行部門と事務管理部門の分離、審査部門の独立、内部監査部門による内部監査の実施など、内部牽制が働く体制としております。また、資本・収益・リスクを一体的に管理するERM（エンタープライズ・リスク・マネジメント）の下で徹底したリスク管理を実施しております。

なお、T&Dホールディングスを中心に、グループとしてのリスク管理体制の整備・充実も図っております。

ロ. 市場リスクの管理

市場リスクに関しては、金利、株価、為替等の運用環境の変化に対する保有資産の感応度を把握するとともに、バリュー・アット・リスク（以下「VaR」という。）を用いてポートフォリオ全体としてリスクを把握し、資金配分の見直しやリスクヘッジなどによりリスクを適切にコントロールしております。

ハ. 信用リスクの管理

信用リスクに関しては、与信先ごとに付与した社内格付を活用してVaRを用いたリスクの計量化を行い、ポートフォリオ全体としてリスクを把握・コントロールしております。また、リスクに応じて業種や企業グル

ープ単位での投融資限度額等を設定し、特定業種・企業グループへの与信集中を制御しております。

二. 流動性リスクの管理

流動性リスクに関しては、リスク管理部門が流動性の高い資産の確保の状況、キャッシュ・フローの状況、金融証券市場の動向、個別金融商品の状況等を把握することにより管理しております。

④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資（以下「組合出資金等」という。）は、次表には含めておりません。（(注)を参照ください。）

また、現金及び預貯金、買入金銭債権のうちコマースペーパー、短期社債、債券貸借取引受入担保金は主に短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
①買入金銭債権	107,985	100,922	△7,062
イ. 有価証券として取り扱うもの	107,985	100,922	△7,062
・満期保有目的の債券	83,930	76,868	△7,062
・その他有価証券	24,054	24,054	—
ロ. 上記以外	—	—	—
②有価証券	5,331,584	5,269,304	△62,280
イ. 売買目的有価証券	196	196	—
ロ. 満期保有目的の債券	380,544	392,518	11,974
ハ. 責任準備金対応債券	1,771,714	1,697,459	△74,254
ニ. その他有価証券(*1)	3,179,129	3,179,129	—
③貸付金	967,883	960,238	△7,644
イ. 保険約款貸付(*2)	23,754	26,066	2,312
ロ. 一般貸付(*2)	945,061	934,171	△9,956
ハ. 貸倒引当金(*3)	△904	—	—
ニ. 前受収益(*4)	△28	—	—
資産計	6,407,452	6,330,465	△76,987
その他負債の中の借入金	91,719	91,367	△352
負債計	91,719	91,367	△352
金融派生商品(*5)	(30,028)	(29,983)	45
・ヘッジ会計が適用されていないもの	(508)	(508)	—
・ヘッジ会計が適用されているもの(*6)	(29,519)	(29,474)	45

(*1) 一部の投資信託について、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従い、投資信託の基準価額を時価とみなしており、当該投資信託が含まれております。

(*2) 差額欄は、貸倒引当金・前受収益を控除した連結貸借対照表計上額と、時価との差額を記載しております。

(*3) 貸付金に対応する貸倒引当金を控除しております。

(*4) 個人ローン等にかかる前受保証料を控除しております。

(*5) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

金融派生商品の「時価」欄において、時価ヘッジに係る取引等は連結貸借対照表に計上されている金額を記載しております。なお、「差額」欄に記載されている金額は、金利スワップの特例処理によるものです。

また、通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建貸付金と一体として処理しているため、その時価は、当該外貨建貸付金の時価に含めて記載しております。

(*6) 一部の金利スワップの特例処理に関して、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」(実務対応報告第40号 2022年3月17日)を適用しております。

(注) 当連結会計年度末において、市場価格のない株式等（非上場株式等）及び組合出資金等の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、「②有価証券」には含めておりません。

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
関連会社株式（非上場株式）(*1)	843
その他有価証券	26,097
非上場株式等(*1)(*2)	16,270
組合出資金等(*2)(*3)	9,827

(*1) 非上場株式等については、市場価格がないことから「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(*2) 非上場株式等及び組合出資金等について、3,125百万円減損処理を行っております。

(*3) 組合出資金等については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

①時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権	—	21,829	2,224	24,054
その他有価証券	—	21,829	2,224	24,054
有価証券(*)	1,392,124	1,267,664	22,023	2,681,812
売買目的有価証券	—	196	—	196
その他の証券	—	196	—	196
その他有価証券	1,392,124	1,267,468	22,023	2,681,616
公社債	365,551	381,855	0	747,407
国債	332,790	—	—	332,790
地方債	—	35,240	—	35,240
社債	32,761	346,615	0	379,376
株式	528,344	—	—	528,344
外国証券	443,249	856,114	22,023	1,321,387
外国公社債	240,091	243,028	22,023	505,143
外国その他の証券	203,157	613,085	—	816,243
その他の証券	54,979	29,498	—	84,478
金融派生商品	—	8	—	8
通貨関連	—	4	—	4
株式関連	—	4	—	4
資産計	1,392,124	1,289,502	24,248	2,705,875
金融派生商品	—	30,037	—	30,037
通貨関連	—	19,296	—	19,296
株式関連	—	10,741	—	10,741
負債計	—	30,037	—	30,037

(*) 一部の投資信託について、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従い、投資信託の基準価額を時価とみなしており、当該投資信託については上記表に含めておりません。

②時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権	—	76,868	—	76,868
満期保有目的の債券	—	76,868	—	76,868
有価証券	1,289,757	800,121	99	2,089,978
満期保有目的の債券	225,804	166,615	99	392,518
公社債	224,999	140,171	—	365,171
国債	224,999	—	—	224,999
地方債	—	43,481	—	43,481
社債	—	96,690	—	96,690
外国証券	804	26,443	99	27,347
外国公社債	804	26,443	99	27,347
責任準備金対応債券	1,063,953	633,506	—	1,697,459
公社債	1,046,534	618,962	—	1,665,496
国債	1,037,347	—	—	1,037,347
地方債	—	141,932	—	141,932
社債	9,186	477,030	—	486,217
外国証券	17,419	14,544	—	31,963
外国公社債	17,419	14,544	—	31,963
貸付金	—	—	960,238	960,238
保険約款貸付	—	—	26,066	26,066
一般貸付	—	—	934,171	934,171
金融派生商品	—	45	—	45
金利関連	—	45	—	45
資産計	1,289,757	877,034	960,338	3,127,130
その他負債の中の借入金	—	—	91,367	91,367
負債計	—	—	91,367	91,367

③時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

買入金銭債権

有価証券として取り扱うことが適当と認められるものは、有価証券と同様な方法によっております。

有価証券

上場株式は市場における相場価格を時価としており、活発な市場における無調整の相場価格を利用できる場合はレベル1の時価に分類しております。

債券は観察可能な取引価格等を時価としており、活発な市場における無調整の取引価格等を利用できる場合はレベル1、観察可能な取引価格等を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。取引価格等が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの割引現在価値法等により時価を算定しております。算定に当たっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、国債利回り、信用リスクのプレミアム等が含まれます。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル3の時価、そうでない場合にはレベル2の時価に分類しております。

また、投資信託は市場における相場価格又は業界団体や投資信託委託会社が公表する基準価額等を時価としており、市場における無調整の相場価格を利用できる場合はレベル1、そうでない場合にはレベル2の時価に分類しております。

貸付金

保険約款貸付は、過去の実績に基づく返済率から生成した将来キャッシュ・フローを、リスク・フリー・レートで割り引いて時価を算定しております。

変動金利による一般貸付は、短期間で市場金利を反映するため、貸付先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該価額によっております。

固定金利による一般貸付は、元利金の合計額をリスク・フリー・レートに信用リスクを加味した割引率で割り引いて時価を算定しております。

また、破綻先債権、実質破綻先債権及び破綻懸念先債権については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しており、時価は当連結会計年度末にお

ける連結貸借対照表計上額から貸倒見積額を控除した金額に近似していることから、当該価額をもって時価としております。

これらの取引については、観察できないインプットを用いていることからレベル3の時価に分類しております。

借入金

元利金の合計額を当該借入金の残存期間及び信用リスクを加味した割引率で割り引いて時価を算定しており、当該割引率が観察不能であることからレベル3の時価に分類しております。

金融派生商品

イ. 為替予約取引は、先物為替相場等を使用しており、レベル2の時価に分類しております。

ロ. 株価指数先物取引、株式先渡取引、株価指数オプション取引、個別株式オプション取引、債券先物取引、債券オプション取引、通貨オプション取引及び金利スワップ取引については、市場における相場価格又は観察可能な市場データに基づき算定された価格等を時価としており、活発な市場における無調整の相場価格を利用できる場合はレベル1の時価、そうでない場合にはレベル2の時価に分類しております。

④時価で連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

イ. 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

区分	評価技法	重要な観察できないインプット	インプットの範囲	インプットの加重平均
買入金銭債権	割引現在価値法	割引率	1.88～8.38%	4.19%
有価証券 (公社債)	割引現在価値法	割引率	0.66%	0.66%
有価証券 (外国証券)	割引現在価値法	割引率	0.44%～0.49%	0.46%

ロ. 期首残高から期末残高への調整表、当連結会計年度の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

	買入金銭債権	有価証券		合計
	その他有価証券	その他有価証券		
		公社債	外国証券	
期首残高	1,517	91	—	1,608
当連結会計年度の損益又はその他の包括利益	△5	0	23	18
損益に計上(*1)	—	—	—	—
その他の包括利益に計上(*2)	△5	0	23	18
購入、売却、発行及び決済の純額	712	△91	22,000	22,621
レベル3の時価への振替	—	—	—	—
レベル3の時価からの振替	—	—	—	—
期末残高	2,224	0	22,023	24,248
当連結会計年度の損益に計上した額のうち当連結会計年度末において保有する金融資産及び負債の評価損益(*1)	—	—	—	—

(*1) 連結損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(*2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

ハ. 時価評価のプロセスの説明

当社は時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿って時価を算定しております。算定された時価は、独立した評価部門にて、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性の運用状況について確認しており、時価の算定の方針及び手続に関する適正性が確保されております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

ニ. 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

買入金銭債権及び有価証券の時価の算定で用いている重要な観察できないインプットは、割引率であります。割引率は、国債金利と信用リスクのプレミアムから構成されます。一般に、割引率の著しい上昇（低下）は、時価の著しい下落（上昇）を生じさせます。

- (4) 一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従い、投資信託の基準価額を時価とみなす投資信託
 一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従い、投資信託の基準価額を時価とみなす一部の投資信託については、「(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項」の開示を行っておりません。当該投資信託の連結貸借対照表における金額は金融資産497,512百万円であります。

①投資信託財産が金融商品である投資信託の期首残高から期末残高への調整表

(単位：百万円)

	その他有価証券
	外国その他の証券
期首残高	352,664
当連結会計年度の損益又はその他の包括利益	73,155
損益に計上(*1)	40,402
その他の包括利益に計上(*2)	32,753
購入、売却及び償還の純額	32,239
当連結会計年度に投資信託の基準価額を時価と見なすこととした額	—
当連結会計年度に投資信託の基準価額を時価と見なさないこととした額	—
期末残高	458,060
当連結会計年度の損益に計上した額のうち当連結会計年度末において保有する投資信託の評価損益(*1)	2,303

(*1) 連結損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(*2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

- ②当連結会計年度末における投資信託財産が金融商品である投資信託の解約又は買戻し請求に関する制限の内容ごとの内訳

(単位：百万円)

	その他有価証券
	外国その他の証券
解約又は買戻し請求の申込可能日の頻度等に制限があるもの	424,529
上記以外	33,530
合計	458,060

- ③投資信託財産が不動産である投資信託の期首残高から期末残高への調整表

(単位：百万円)

	その他有価証券
	その他の証券
期首残高	37,552
当連結会計年度の損益又はその他の包括利益	563
損益に計上(*1)	—
その他の包括利益に計上(*2)	563
購入、売却及び償還の純額	1,336
当連結会計年度に投資信託の基準価額を時価と見なすこととした額	—
当連結会計年度に投資信託の基準価額を時価と見なさないこととした額	—
期末残高	39,452
当連結会計年度の損益に計上した額のうち当連結会計年度末において保有する投資信託の評価損益(*1)	—

(*1) 連結損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(*2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

23. 賃貸等不動産の状況に関する事項及び賃貸等不動産の時価に関する事項

当社は、全国主要都市を中心に、主に賃貸用のオフィスビルを所有しており、当連結会計年度末における当該賃貸

等不動産の連結貸借対照表計上額は146,985百万円、時価は203,743百万円であります。

なお、時価の算定にあたっては、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については公示価格等に基づいて自社で算定した金額によっております。

24. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の連結貸借対照表価額は、1,155,601百万円であります。

25. 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸付条件緩和債権の額は、829百万円であり、それぞれの内訳は次のとおりであります。

債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は97百万円であります。

上記取立不能見込額の直接減額は、0百万円であります。

なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

債権のうち、危険債権額は4百万円であります。

なお、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。

債権のうち、三月以上延滞債権額は707百万円であります。

なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払いが、約定支払日の翌日を起算日として三月以上延滞している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。

債権のうち、貸付条件緩和債権額は20百万円であります。

なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権に該当しないものであります。

26. 有形固定資産の減価償却累計額は、130,818百万円であります。

27. 当社の保険業法第118条第1項に規定する特別勘定の資産の額は、203百万円であります。なお、負債の額も同額であります。

28. 1株当たり純資産額は、169,527円44銭であります。

29. 当社の契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

当連結会計年度期首現在高	22,052百万円
当連結会計年度契約者配当金支払額	12,818百万円
利息による増加等	1百万円
契約者配当準備金繰入額	13,606百万円
当連結会計年度末現在高	22,841百万円

30. 関係会社の株式は843百万円であります。

31. 当社の保険業法第91条の規定による組織変更剰余金額は、63,158百万円であります。

32. 当社の貸付金に係るコミットメント契約の総額は1,961百万円であり、融資未実行残高は1,952百万円であります。

33. その他負債に計上している借入金のうち50,000百万円は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金であります。

34. 退職給付債務に関する事項は次のとおりであります。

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

(2) 確定給付制度

①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	53,128百万円
勤務費用	1,958百万円
利息費用	364百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△6,192百万円
退職給付の支払額	<u>△2,042百万円</u>
期末における退職給付債務	<u>47,216百万円</u>

②年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	35,970百万円
期待運用収益	726百万円

数理計算上の差異の当期発生額	1,825百万円
事業主からの拠出額	1,702百万円
退職給付の支払額	<u>△987百万円</u>
期末における年金資産	<u>39,238百万円</u>
③退職給付債務及び年金資産と連結貸借対照表で計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表	
積立型制度の退職給付債務	28,501百万円
年金資産	<u>△39,238百万円</u>
	<u>△10,736百万円</u>
非積立型制度の退職給付債務	<u>18,714百万円</u>
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>7,977百万円</u>

退職給付に係る負債	18,714百万円
退職給付に係る資産	<u>△10,736百万円</u>
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>7,977百万円</u>

④退職給付に関連する損益

勤務費用	1,958百万円
利息費用	364百万円
期待運用収益	△726百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	<u>△8,018百万円</u>
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>△6,421百万円</u>

⑤年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

生命保険一般勘定	38.1%
債券	24.7%
外国証券	20.8%
株式	9.4%
不動産	4.5%
共同運用資産	<u>2.4%</u>
合計	<u>100.0%</u>

⑥長期期待運用収益率の設定方法

当社は、年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

⑦数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。

割引率	一時金 1.3%、年金 1.8%
長期期待運用収益率	2.02%

35. 繰延税金資産の総額は、81,575百万円、繰延税金負債の総額は、101,221百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、5,409百万円であります。

繰延税金資産の発生 of 主な原因別内訳は、価格変動準備金38,577百万円、保険契約準備金23,226百万円及び退職給付に係る負債5,245百万円であります。また、繰延税金負債の発生 of 主な原因別内訳は、その他有価証券評価差額金94,994百万円であります。

当連結会計年度における法定実効税率は28.0%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率19.3%との差異の主要な内訳は、売却等による土地再評価差額金の取崩し△9.2%であります。

株式会社T&Dホールディングスを通算親会社として、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

36. 担保として供している資産の額は、有価証券（国債）1,212,371百万円、有価証券（外国証券）192,458百万円及び金融商品等差入担保金5,210百万円であります。

また、担保付債務の額は、債券貸借取引受入担保金706,530百万円であります。

なお、上記有価証券（国債）には、現金担保付債券貸借取引により差し入れた有価証券522,121百万円及び無担保債券貸借取引により差し入れた有価証券441,021百万円を含んでおります。また、上記有価証券（外国証券）には、現金担保付債券貸借取引により差し入れた有価証券172,202百万円及び有価証券担保付債券貸借取引により差し入れた有価証券20,256百万円を含んでおります。

③連結損益計算書及び連結包括利益計算書

(連結損益計算書)

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
経常収益	982,595	1,010,469
保険料等収入	643,308	702,821
保険料	551,268	617,655
再保険収入	92,040	85,166
資産運用収益	214,458	230,883
利息及び配当金等収入	160,519	145,381
有価証券売却益	46,241	72,920
有価証券償還益	369	—
為替差益	6,932	12,370
貸倒引当金戻入額	252	—
その他運用収益	142	168
特別勘定資産運用益	—	43
その他経常収益	124,819	76,764
責任準備金戻入額	83,950	31,433
その他の経常収益	40,869	45,330
持分法による投資利益	8	—
経常費用	933,768	956,338
保険金等支払金	726,570	692,392
保険金	195,100	98,904
年金	235,562	245,113
給付金	108,073	86,972
解約返戻金	92,314	199,850
その他返戻金	94,812	60,942
再保険料	706	608
責任準備金等繰入額	255	917
支払備金繰入額	254	916
契約者配当金積立利息繰入額	1	1
資産運用費用	71,446	124,507
支払利息	964	689
有価証券売却損	15,614	46,052
有価証券評価損	1,437	3,820
金融派生商品費用	46,197	65,291
貸倒引当金繰入額	—	38
貸付金償却	2	—
賃貸用不動産等減価償却費	3,639	3,660
その他運用費用	3,585	4,953
特別勘定資産運用損	4	—
事業費	89,477	91,322
その他経常費用	46,018	47,073
持分法による投資損失	—	124
経常利益	48,826	54,131
特別利益	1,425	10,619
固定資産等処分益	1,271	9,800
国庫補助金収入	151	819
その他特別利益	2	—
特別損失	3,808	4,691
固定資産等処分損	273	443
減損損失	87	303
価格変動準備金繰入額	3,295	3,124
補助金事業支出	151	819
契約者配当準備金繰入額	10,847	13,606
税金等調整前当期純利益	35,597	46,453
法人税及び住民税等	6,262	7,331
法人税等調整額	2,145	1,611
法人税等合計	8,407	8,943
当期純利益	27,189	37,510
非支配株主に帰属する当期純利益 (△は非支配株主に帰属する当期純損失)	△22	△3
親会社株主に帰属する当期純利益	27,211	37,513

(連結損益計算書注記)

1. 1株当たり当期純利益の金額は15,005円42銭であります。
2. 当連結会計年度における固定資産の減損損失に関する事項は、次のとおりであります。

(1) 資産をグルーピングした方法

当社は、保険営業等の用に供している不動産等について、保険営業等全体で1つの資産（営業用資産）グループとし、それ以外の賃貸不動産等及び遊休不動産等について、それぞれの物件ごとに1つの資産（投資用資産）グループとしております。

なお、子会社は、事業の用に供している不動産等について、各社ごとに1つの資産（営業用資産）グループとしております。

(2) 減損損失の認識に至った経緯

一部の資産グループについて、市場価格の著しい下落や、賃料水準の低迷等による収益性の低下が見られたことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(3) 減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳

(単位：百万円)

用途	種類	場所等	減損損失		
			土地	建物等	計
遊休不動産等	土地及び建物	石川県金沢市 など2件	218	84	303

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、正味売却価額を適用しております。

なお、正味売却価額は原則として、不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額から処分費用見込額を差し引いて算定しております。

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
	当期純利益	27,189
その他の包括利益	△112,900	174,265
その他有価証券評価差額金	△113,041	174,072
繰延ヘッジ損益	153	153
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	39
包括利益	△85,711	211,775
親会社株主に係る包括利益	△85,689	211,778
非支配株主に係る包括利益	△21	△3

(連結包括利益計算書注記)

その他の包括利益の内訳

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	267,585百万円
組替調整額	△26,111百万円
税効果調整前	241,474百万円
税効果額	△67,402百万円
その他有価証券評価差額金	174,072百万円

繰延ヘッジ損益：

当期発生額	－百万円
組替調整額	212百万円
税効果調整前	212百万円
税効果額	△59百万円
繰延ヘッジ損益	153百万円

持分法適用会社に対する持分相当額：

当期発生額	39百万円
-------	-------

その他の包括利益合計 174,265百万円

④連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)	
	営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益 (△は損失)		35,597		46,453
貸貸用不動産等減価償却費		3,639		3,660
減価償却費		6,401		5,645
減損損失		87		303
支払備金の増減額 (△は減少)		254		916
責任準備金の増減額 (△は減少)		△83,950		△31,433
契約者配当準備金積立利息繰入額		1		1
契約者配当準備金繰入額		10,847		13,606
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		△269		36
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)		107		△7,992
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)		△86		△1,187
価格変動準備金の増減額 (△は減少)		3,295		3,124
利息及び配当金等収入		△160,519		△145,381
有価証券関係損益 (△は益)		△29,555		△23,090
支払利息		964		689
為替差損益 (△は益)		△6,933		△12,370
有形固定資産関係損益 (△は益)		△1,009		△9,558
持分法による投資損益 (△は益)		△8		124
再保険貸の増減額 (△は増加)		△19,641		1,692
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は増加)		△6,346		△2,150
再保険借の増減額 (△は減少)		△473		△36
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は減少)		1,332		615
その他		46,572		66,179
小計		△199,691		△90,151
利息及び配当金等の受取額		159,661		136,482
利息の支払額		△1,053		△685
契約者配当金の支払額		△12,671		△12,818
その他		△2,532		△2,682
法人税等の支払額 (+は受取額)		25,106		△9,421
営業活動によるキャッシュ・フロー		△31,181		20,723
投資活動によるキャッシュ・フロー				
預貯金の純増減額 (△は増加)		20,000		—
買入金銭債権の取得による支出		△13,575		△6,807
買入金銭債権の売却・償還による収入		6,740		5,394
有価証券の取得による支出		△712,812		△547,314
有価証券の売却・償還による収入		1,292,678		888,385
貸付けによる支出		△187,398		△105,308
貸付金の回収による収入		172,126		189,251
その他		△301,197		△438,918
資産運用活動計		276,562		△15,317
(営業活動及び資産運用活動計)		(245,380)		(5,405)
有形固定資産の取得による支出		△5,002		△7,664
有形固定資産の売却による収入		2,215		17,454
その他		△6		△73
投資活動によるキャッシュ・フロー		273,769		△5,602
財務活動によるキャッシュ・フロー				
短期社債の純増減額 (△は減少)		999		1,995
借入れによる収入		15,400		9,000
借入金の返済による支出		△25,173		△12,851
社債の償還による支出		△37,000		—
リース債務の返済による支出		△185		△190
配当金の支払額		△9,152		△40,270
連結の範囲の変更を伴わない子会社及び子 法人等の株式の取得による支出		△775		—
その他		△11		△64
財務活動によるキャッシュ・フロー		△55,898		△42,380
現金及び現金同等物に係る換算差額		△79		332
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		186,609		△26,927
現金及び現金同等物期首残高		391,198		577,808
現金及び現金同等物期末残高		577,808		550,880

(連結キャッシュ・フロー計算書注記)

1. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物は、現金、随時引き出し可能な預金及び安易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期資金からなっております。

2. 現金及び現金同等物の連結会計年度末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との差額

(単位：百万円)

・連結貸借対照表の「現金及び預貯金」勘定	544,880
・連結貸借対照表の「買入金銭債権」勘定	113,984
・上記のうち現金同等物以外の買入金銭債権	△107,985
現金及び現金同等物	550,880

⑤連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	62,500	62,500	67,466	192,466
当期変動額				
剰余金の配当			△9,152	△9,152
親会社株主に帰属する当期純利益			27,211	27,211
土地再評価差額金の取崩			△805	△805
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		74		74
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	74	17,253	17,328
当期末残高	62,500	62,574	84,719	209,794

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	192,254	△2,527	△35,062	△53	154,611	951	348,028
当期変動額							
剰余金の配当							△9,152
親会社株主に帰属する当期純利益							27,211
土地再評価差額金の取崩							△805
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							74
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△113,041	153	805	△11	△112,095	△883	△112,979
当期変動額合計	△113,041	153	805	△11	△112,095	△883	△95,650
当期末残高	79,212	△2,374	△34,256	△65	42,515	67	252,377

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	62,500	62,574	84,719	209,794
当期変動額				
剰余金の配当			△40,270	△40,270
親会社株主に帰属する 当期純利益			37,513	37,513
土地再評価差額金の取崩			△14,846	△14,846
連結範囲の変動			0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	△17,602	△17,602
当期末残高	62,500	62,574	67,117	192,191

	その他の包括利益累計額					非支配株主 持分	純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	為替換算調整 勘定	その他の包括 利益累計額 合計		
当期首残高	79,212	△2,374	△34,256	△65	42,515	67	252,377
当期変動額							
剰余金の配当							△40,270
親会社株主に帰属する 当期純利益							37,513
土地再評価差額金の取崩							△14,846
連結範囲の変動							0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	174,076	153	14,846	35	189,111	△67	189,043
当期変動額合計	174,076	153	14,846	35	189,111	△67	171,440
当期末残高	253,289	△2,221	△19,410	△30	231,626	—	423,818

（連結株主資本等変動計算書注記）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（千株）	当連結会計年度 増加株式数（千株）	当連結会計年度 減少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式 普通株式	2,500	—	—	2,500

2. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	40,270百万円	16,108円	2023年6月23日	2023年6月26日

(4) 保険業法に基づく債権の状況（連結）

（単位：百万円、％）

区 分	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	191	97
危険債権	14	4
三月以上延滞債権	891	707
貸付条件緩和債権	20	20
小 計 (対合計比)	1,118 (0.05)	829 (0.04)
正常債権	2,384,031	2,125,121
合 計	2,385,149	2,125,950

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。（注1に掲げる債権を除く。）
3. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸付金です。（注1及び2に掲げる債権を除く。）
4. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金です。（注1から3に掲げる債権を除く。）
5. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から4までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

(5) 連結ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項 目	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当連結会計年度末 (2024年3月31日)
連結ソルベンシー・マージン総額 (A)	581,273	807,056
資本金等	169,592	163,054
価格変動準備金	134,651	137,775
危険準備金	68,475	68,475
異常危険準備金	—	—
一般貸倒引当金	1,504	1,481
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	93,158	310,677
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	31,356	47,631
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	17,174	16,794
配当準備金中の未割当額	1,380	1,263
税効果相当額	14,983	10,773
負債性資本調達手段等	50,000	50,000
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	△1,004	△869
連結リスクの合計額 (B)	197,854	223,794
$\sqrt{(\sqrt{R_1^2+R_5^2+R_8+R_9})^2+(R_2+R_3+R_7)^2+R_4+R_6}$		
保険リスク相当額 R ₁	12,290	11,597
一般保険リスク相当額 R ₅	—	—
巨大災害リスク相当額 R ₆	—	—
第三分野保険の保険リスク相当額 R ₈	11,211	10,931
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R ₉	—	—
予定利率リスク相当額 R ₂	9,782	9,713
最低保証リスク相当額 R ₇	9	8
資産運用リスク相当額 R ₃	182,318	208,103
経営管理リスク相当額 R ₄	4,312	4,807
連結ソルベンシー・マージン比率 (A) —×100 (1/2)×(B)	587.5%	721.2%

- (注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条の2、第88条及び平成23年金融庁告示第23号の規定に基づいて算出しています。
2. 「資本金等」は、連結貸借対照表上の「純資産の部合計」から、その他の包括利益累計額合計及び社外流出予定額を控除した額を記載しています。
3. 最低保証リスク相当額は、標準的方式を用いて算出しています。

(6) 子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況(ソルベンシー・マージン比率)

前連結会計年度末(2023年3月31日)及び当連結会計年度末(2024年3月31日)における子会社等である保険会社はありません。

(7) セグメント情報

前連結会計年度(自2022年4月1日至2023年3月31日)及び当連結会計年度(自2023年4月1日至2024年3月31日)

当社及び連結子会社は、生命保険事業以外にリース事業等を営んでおりますが、当該事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、セグメント情報及び関連情報の記載を省略しております。

2024年3月期 決算補足資料

1 一般勘定資産の運用状況

(1) 有価証券明細表	73頁
(2) 有価証券残存期間別残高	73頁
(3) 業種別株式保有明細表	74頁
(4) 貸付金明細表	75頁
(5) 国内企業向け貸付金企業規模別内訳	75頁
(6) 貸付金業種別内訳	76頁
(7) 貸付金地域別内訳	77頁
(8) 貸付金担保別内訳	77頁
(9) 貸付金残存期間別残高	78頁
(10) 海外投融資関係	78頁

2 会社計（一般勘定・特別勘定）

(1) 資産の構成	80頁
(2) 売買目的有価証券の評価損益	80頁
(3) 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの）	80頁
(4) 金銭の信託の時価情報	80頁
(5) 土地等の時価情報	80頁
(6) デリバティブ取引の時価情報	80頁

1. 一般勘定資産の運用状況

(1) 有価証券明細表

(単位：百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
国債	1,612,825	30.6	1,624,068	30.3
地方債	212,641	4.0	223,445	4.2
社債	1,000,809	19.0	984,229	18.4
うち公社・公団債	593,836	11.3	558,739	10.4
株式	431,903	8.2	538,475	10.0
外国証券	1,891,662	35.9	1,848,877	34.5
公社債	845,046	16.0	571,073	10.6
株式等	1,046,616	19.9	1,277,803	23.8
その他の証券	116,360	2.2	143,151	2.7
合 計	5,266,203	100.0	5,362,248	100.0

(2) 有価証券残存期間別残高

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)						
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定め ないものを 含む)	合 計
有価証券	183,482	248,572	199,466	318,242	306,093	4,010,344	5,266,203
国債	85,663	91,083	6,649	100,210	49,531	1,279,686	1,612,825
地方債	10,893	20,416	20,622	17,808	5,865	137,035	212,641
社債	69,076	63,711	77,770	105,228	92,656	592,366	1,000,809
株式	—	—	—	—	—	431,903	431,903
外国証券	16,466	66,517	79,429	94,994	156,537	1,477,717	1,891,662
公社債	13,684	66,517	79,429	94,994	156,393	434,027	845,046
株式等	2,782	—	—	—	144	1,043,689	1,046,616
その他の証券	1,383	6,844	14,994	—	1,502	91,635	116,360
買入金銭債権	5,999	—	—	—	684	107,069	113,753
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—
合 計	189,482	248,572	199,466	318,242	306,778	4,117,413	5,379,956

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

(単位：百万円)

区 分	当事業年度末 (2024年3月31日)						
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定め ないものを 含む)	合 計
有価証券	180,383	237,396	221,158	264,150	191,178	4,267,980	5,362,248
国債	53,061	107,508	70,573	63,933	64,917	1,264,074	1,624,068
地方債	23,465	38,892	10,319	12,471	4,703	133,593	223,445
社債	73,227	63,669	89,722	108,770	67,641	581,197	984,229
株式	—	—	—	—	—	538,475	538,475
外国証券	28,201	8,314	45,793	78,975	52,563	1,635,029	1,848,877
公社債	26,523	8,314	45,793	78,975	52,180	359,287	571,073
株式等	1,678	—	—	—	383	1,275,742	1,277,803
その他の証券	2,427	19,012	4,749	—	1,352	115,609	143,151
買入金銭債権	5,999	—	—	1,366	—	106,618	113,984
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—
合 計	186,383	237,396	221,158	265,517	191,178	4,374,599	5,476,233

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

(3) 業種別株式保有明細表

(単位：百万円、%)

区 分		前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
		金 額	占 率	金 額	占 率
水産・農林業		—	—	—	—
鉱業		—	—	—	—
建設業		22,953	5.3	30,698	5.7
製造業	食料品	247	0.1	231	0.0
	繊維製品	84	0.0	77	0.0
	パルプ・紙	2,571	0.6	4,883	0.9
	化学	20,648	4.8	20,137	3.7
	医薬品	—	—	—	—
	石油・石炭製品	—	—	—	—
	ゴム製品	—	—	—	—
	ガラス・土石製品	10	0.0	10	0.0
	鉄鋼	2,458	0.6	4,423	0.8
	非鉄金属	—	—	—	—
	金属製品	567	0.1	242	0.0
	機械	94,439	21.9	82,015	15.2
	電気機器	13,719	3.2	21,628	4.0
	輸送用機器	4,907	1.1	4,434	0.8
精密機器	30,683	7.1	31,350	5.8	
その他製品	1,264	0.3	1,840	0.3	
電気・ガス業		1,185	0.3	1,383	0.3
運輸・情報通信業	陸運業	85,396	19.8	91,229	16.9
	海運業	—	—	—	—
	空運業	—	—	—	—
	倉庫・運輸関連業	338	0.1	346	0.1
	情報・通信業	220	0.1	265	0.0
商業	卸売業	35,962	8.3	61,925	11.5
	小売業	—	—	—	—
金融・保険業	銀行業	25,739	6.0	43,845	8.1
	証券、商品先物取引業	25,841	6.0	47,861	8.9
	保険業	1,277	0.3	1,277	0.2
	その他金融業	26,017	6.0	28,873	5.4
不動産業		28,061	6.5	54,268	10.1
サービス業		7,306	1.7	5,225	1.0
合 計		431,903	100.0	538,475	100.0

(4) 貸付金明細表

(単位：百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)	当事業年度末 (2024年3月31日)
保険約款貸付	26,700	23,754
契約者貸付	25,720	22,848
保険料振替貸付	980	906
一般貸付 (うち非居住者貸付)	1,038,185 (-)	968,449 (2,000)
企業貸付 (うち国内企業向け)	742,705 (742,705)	679,610 (677,610)
国・国際機関・政府関係機関貸付	2,007	2,004
公共団体・公企業貸付	75,019	65,239
住宅ローン	163,859	160,241
消費者ローン	54,556	61,331
その他	37	22
合 計	1,064,886	992,203

(5) 国内企業向け貸付金企業規模別内訳

(単位：件、百万円、%)

区 分		前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
			占 率		占 率
大企業	貸付先数	128	68.4	124	69.3
	金 額	582,585	78.4	543,947	80.3
中堅企業	貸付先数	4	2.1	5	2.8
	金 額	3,871	0.5	3,979	0.6
中小企業	貸付先数	55	29.4	50	27.9
	金 額	156,249	21.0	129,683	19.1
国内企業向け 貸付計	貸付先数	187	100.0	179	100.0
	金 額	742,705	100.0	677,610	100.0

(注) 1. 貸付先数とは、各貸付先を名寄せした結果の債務者数をいい、貸付件数ではありません。

2. 業種の区分は以下のとおりです。

業種	①右の②～④を除く全業種		②「小売業」、「飲食業」		③「サービス業」		④「卸売業」	
大企業	従業員 300人超 かつ	資本金 10億円以上	従業員 50人超 かつ	資本金 10億円以上	従業員 100人超 かつ	資本金 10億円以上	従業員 100人超 かつ	資本金 10億円以上
中堅企業		資本金3億円超 10億円未満		資本金5千万円超 10億円未満		資本金5千万円超 10億円未満		資本金1億円超 10億円未満
中小企業	資本金3億円以下又は 常用する従業員300人以下		資本金5千万円以下又は 常用する従業員50人以下		資本金5千万円以下又は 常用する従業員100人以下		資本金1億円以下又は 常用する従業員100人以下	

(注) サービス業とは、「物品貸業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「宿泊業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「教育、学習支援業」、「医療・福祉」及び「その他のサービス」で構成されています。

(6) 貸付金業種別内訳

(単位：百万円、%)

区 分		前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
		金 額	占 率	金 額	占 率
国内向け	製造業	78,469	7.6	72,132	7.4
	食料	1,000	0.1	1,000	0.1
	繊維	5,900	0.6	5,400	0.6
	木材・木製品	—	—	—	—
	パルプ・紙	3,628	0.3	3,596	0.4
	印刷	—	—	—	—
	化学	27,205	2.6	22,161	2.3
	石油・石炭	—	—	—	—
	窯業・土石	3,500	0.3	2,500	0.3
	鉄鋼	6,746	0.6	7,413	0.8
	非鉄金属	700	0.1	700	0.1
	金属製品	1,889	0.2	1,778	0.2
	はん用・生産用・業務用機械	9,750	0.9	9,734	1.0
	電気機械	4,150	0.4	3,850	0.4
	輸送用機械	14,000	1.3	14,000	1.4
	その他の製造業	—	—	—	—
	農業・林業	—	—	—	—
	漁業	—	—	—	—
	鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—
	建設業	12,296	1.2	10,125	1.0
	電気・ガス・熱供給・水道業	33,409	3.2	32,879	3.4
	情報通信業	4,320	0.4	4,450	0.5
	運輸業、郵便業	51,022	4.9	51,183	5.3
	卸売業	99,250	9.6	81,150	8.4
	小売業	2,887	0.3	2,223	0.2
	金融業、保険業	226,987	21.9	194,641	20.1
	不動産業	112,689	10.9	112,464	11.6
	物品賃貸業	118,218	11.4	113,711	11.7
	学術研究、専門・技術サービス業	—	—	—	—
	宿泊業	—	—	—	—
	飲食業	—	—	—	—
生活関連サービス業、娯楽業	596	0.1	1,014	0.1	
教育、学習支援業	—	—	—	—	
医療・福祉	869	0.1	—	—	
その他のサービス	3,694	0.4	3,637	0.4	
地方公共団体	75,019	7.2	65,239	6.7	
個人（住宅・消費・納税資金等）	218,453	21.0	221,595	22.9	
その他	—	—	—	—	
	合 計	1,038,185	100.0	966,449	99.8
海外向け	政府等	—	—	—	—
	金融機関	—	—	—	—
	商工業（等）	—	—	2,000	0.2
	合 計	—	—	2,000	0.2
	一 般 貸 付 計	1,038,185	100.0	968,449	100.0

(7) 貸付金地域別内訳

(単位:百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
北海道	3,315	0.4	3,259	0.4
東 北	4,917	0.6	4,623	0.6
関 東	607,626	74.1	559,415	75.1
中 部	59,967	7.3	45,436	6.1
近 畿	115,830	14.1	109,909	14.8
中 国	10,361	1.3	9,321	1.3
四 国	2,400	0.3	2,340	0.3
九 州	15,311	1.9	10,546	1.4
合 計	819,731	100.0	744,853	100.0

(注) 1. 個人ローン、非居住者貸付、保険約款貸付等は含んでいません。

2. 地域区分は、貸付先の本社所在地によります。

3. 地域区分 北海道……北海道

東北 ……青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島

関東 ……茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

中部 ……新潟、富山、石川、福井、長野、山梨、岐阜、愛知、静岡、三重

近畿 ……滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫

中国 ……鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国 ……香川、徳島、愛媛、高知

九州 ……福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

(8) 貸付金担保別内訳

(単位:百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
担保貸付	70	0.0	120	0.0
有価証券担保貸付	—	—	—	—
不動産・動産・財団担保貸付	70	0.0	120	0.0
指名債権担保貸付	—	—	—	—
保証貸付	9,657	0.9	8,694	0.9
信用貸付	810,004	78.0	738,039	76.2
その他	218,453	21.0	221,595	22.9
一 般 貸 付 計	1,038,185	100.0	968,449	100.0
うち劣後特約付貸付	42,000	4.0	42,800	4.4

(9) 貸付金残存期間別残高

(単位:百万円)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)						合 計
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定め ないものを 含む)	
変動金利	6,435	27,646	11,729	4,188	4,548	6,252	60,801
固定金利	129,982	219,739	217,856	121,690	104,421	183,694	977,383
一般貸付計	136,417	247,386	229,586	125,878	108,970	189,946	1,038,185

(単位:百万円)

区 分	当事業年度末 (2024年3月31日)						合 計
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定め ないものを 含む)	
変動金利	21,815	14,691	6,108	5,320	4,206	5,491	57,633
固定金利	132,371	203,649	203,808	114,270	100,165	156,550	910,815
一般貸付計	154,187	218,340	209,916	119,591	104,371	162,041	968,449

(10) 海外投融資関係

①資産別明細

a. 外貨建資産

(単位:百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
公社債	858,233	41.4	549,052	27.1
株式	5,469	0.3	2,703	0.1
現預金・その他	1,070,646	51.7	1,305,581	64.5
小 計	1,934,349	93.3	1,857,337	91.7

b. 円貨額が確定した外貨建資産

(単位:百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
公社債	—	—	—	—
現預金・その他	38,164	1.8	29,448	1.5
小 計	38,164	1.8	29,448	1.5

c. 円貨建資産

(単位:百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
非居住者貸付	—	—	2,000	0.1
外国公社債	80,571	3.9	114,880	5.7
外国株式等	19,544	0.9	20,447	1.0
その他	232	0.0	302	0.0
小 計	100,347	4.8	137,630	6.8

d. 合計 (a + b + c)

(単位:百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
海外投融資	2,072,861	100.0	2,024,417	100.0

(注) 「円貨額が確定した外貨建資産」は、為替予約等が付されていることにより決済時の円貨額が確定し、当該円貨額を資産の貸借対照表計上額としているものです。

②外貨建資産の通貨別構成

(単位：百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)		当事業年度末 (2024年3月31日)	
	金 額	占 率	金 額	占 率
米ドル	1,545,136	79.9	1,584,307	85.3
ユーロ	274,646	14.2	231,541	12.5
豪ドル	69,463	3.6	38,780	2.1
英ポンド	33,320	1.7	—	—
加ドル	6,309	0.3	—	—
その他	5,473	0.3	2,707	0.1
合 計	1,934,349	100.0	1,857,337	100.0

③地域別構成

(単位：百万円、%)

区 分	前事業年度末 (2023年3月31日)							
	外国証券				非居住者貸付			
	金 額	占 率	金 額	占 率	金 額	占 率	金 額	占 率
北 米	712,532	37.7	549,253	65.0	163,278	15.6	—	—
ヨーロッパ	213,661	11.3	168,499	19.9	45,161	4.3	—	—
オセアニア	61,725	3.3	61,725	7.3	—	—	—	—
アジア	12,173	0.6	6,704	0.8	5,469	0.5	—	—
中南米	847,010	44.8	14,302	1.7	832,707	79.6	—	—
中 東	—	—	—	—	—	—	—	—
アフリカ	—	—	—	—	—	—	—	—
国際機関	44,559	2.4	44,559	5.3	—	—	—	—
合 計	1,891,662	100.0	845,046	100.0	1,046,616	100.0	—	—

(単位：百万円、%)

区 分	当事業年度末 (2024年3月31日)							
	外国証券				非居住者貸付			
	金 額	占 率	金 額	占 率	金 額	占 率	金 額	占 率
北 米	568,656	30.8	380,290	66.6	188,366	14.7	2,000	100.0
ヨーロッパ	136,026	7.4	121,018	21.2	15,008	1.2	—	—
オセアニア	29,335	1.6	29,335	5.1	—	—	—	—
アジア	9,406	0.5	6,703	1.2	2,703	0.2	—	—
中南米	1,105,155	59.8	33,430	5.9	1,071,725	83.9	—	—
中 東	—	—	—	—	—	—	—	—
アフリカ	—	—	—	—	—	—	—	—
国際機関	296	0.0	296	0.1	—	—	—	—
合 計	1,848,877	100.0	571,073	100.0	1,277,803	100.0	2,000	100.0

2. 会社計（一般勘定・特別勘定）

（1）資産の構成

（単位：百万円）

区 分	当事業年度末 (2024年3月31日)		
	一般勘定	特別勘定	会社計
現預金・コールローン	538,835	6	538,841
買入金銭債権	113,984	—	113,984
金銭の信託	—	—	—
有価証券	5,362,248	196	5,362,444
公社債	2,831,743	—	2,831,743
株式	538,475	—	538,475
外国証券	1,848,877	—	1,848,877
その他の証券	143,151	196	143,348
貸付金	992,203	—	992,203
不動産	221,028	—	221,028
繰延税金資産	—	—	—
その他	80,869	—	80,869
貸倒引当金	△ 1,520	—	△ 1,520
合 計	7,307,649	202	7,307,852
うち外貨建資産	1,857,337	—	1,857,337

（2）売買目的有価証券の評価損益

売買目的有価証券は、一般勘定では保有していないため、特別勘定と同様です。なお、特別勘定の売買目的有価証券の評価損益は、49ページをご参照ください。

（3）有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外）

売買目的有価証券以外の有価証券は、特別勘定では保有していないため、一般勘定と同様です。なお、一般勘定の有価証券の時価情報(売買目的有価証券以外)は、12～16ページをご参照ください。

（4）金銭の信託の時価情報

当社は、当事業年度末について残高はありません。

（5）土地等の時価情報

土地等は、特別勘定では保有していないため、一般勘定と同様です。なお、一般勘定の土地等の時価情報は、17ページをご参照ください。

（6）デリバティブ取引の時価情報

デリバティブ取引は、特別勘定では取り組んでいないため、一般勘定と同様です。なお、一般勘定のデリバティブ取引の時価情報は、17～22ページをご参照ください。